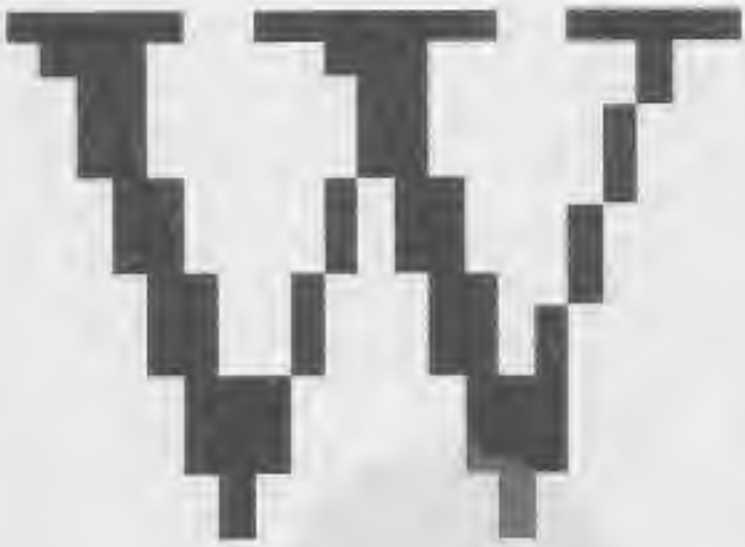


WinBook Quattro

Quattro 90
(J4P90CX)

ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ユーザーズガイドのすべての内容は著作権によって保護されています。本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。
Copyright © 1993, 1994, 1995 株式会社ソーテック
神奈川県横浜市中区太田町4-55
横浜馬車道ビル

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft、MS-DOS、Version6.2/V. 5.0/Vは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。
Microsoft・Windows Version3.1は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Microsoft Windows又はWindowsと省略します。
SystemSoftは米国システムソフト社の登録商標です。
Card Wizardは米国システムソフト社の商標です。
Maxlimizer、Any Key Resume、CARDSOFTは、米国システムソフト社の登録商標です。
PS/2は米国IBM社の登録商標です。
PCMCIAは米国PCMCIA社の商標です。
グライドポイント(GlidePoint)は、Cirque Corporation社の登録商標です。
SLエンハンストI486DX4、およびPentiumは米国インテル社の登録商標です。以下DX4と省略します。

WinBook Quattro 90
ノートブック コンピュータ
ユーザーズガイド

WinBook Quattro

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Quattroをお買い上げいただきまことにありがとうございました。ソーテックWinBook Quattroは、高精細の800×600ドットワイド画面に加え、CD-ROMドライブやステレオスピーカ、マイクなどのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトなA4サイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を8つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Quattroを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

株式会社ソーテック

本製品を正しくお使いいただくために

ご使用の前に取り扱い上の注意をよくお読みになり正しくお使いください。

⚠警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。修理は販売店にご相談ください。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因になります。

お願い

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているMS-DOSやMS Windows、MS Works、および各種ユーティリティソフトをお使いになる前に、必ずバックアップをおとりください。(➔ 108ページ)
●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをおとりください。
●本体底面のファームウェアカバーは絶対に開けないでください。修理は販売店にご相談ください。

⚠ 注意

●ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。

●落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光の当たるところ、腐食性ガスのある場所、ほこりの多いところ、使用温度範囲(10～30℃)/使用湿度範囲(20～80%)を超える範囲では使用・保管しないでください。

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショートなどの端子を針金などで接続させることはしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリから液が漏れたり異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。もし、電池から漏れた液が眼に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

お手入れについて

●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使いから拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、専用のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

Contents

重要なお知らせ
版権について
はじめに 1
本製品を正しくお使いいただくために 2
Contents 4
ユーザーズガイドの読みかた 10
困ったときはサポートへ・・・ 12

第1章 スタートアップガイド

1 WinBook Quattro の機能を知る 14

2 梱包の内容を確認する 16
ハードウェアと付属品 16
インストールされているソフトウェア 17

3 各部の名前と機能を確認する 18
カバーの開け閉め 18
前面・上面 18
右側面・後面 20
底面 22
ステータスLEDについて 23

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電 24
最初に使うときは… 24
ACアダプタの接続と充電 24
バッテリ残量が少なくなったときは 25
バッテリパックの交換 26

5 電源のON/OFFとリセット 28
電源のON/OFF 28
コンピュータをリセットする 29

6 バックアップディスクの作成 30

7 日付と時刻を合わせる 31

8 レジューム機能とスピーカ音量を設定する 32
サスペンド/レジューム機能の設定 32
スピーカの音量の調節 33

9 Windowsを起動させる 34

10 グライドポイントの使いかた 35
画面のポインタを動かすには 35
クリックするには 35
実際に動かしてみよう 36

11 ドライブユニットを交換する 37
ドライブユニットとは 37
取り外すには 37
取り付けるには 38
フロッピーディスクを外付けで使うには 39

12 フロッピーディスクドライブの使いかた 40
フロッピーディスクを使うときの注意 40
データを書き込み禁止にする 41
ドライブへの出し入れ 41
1.2MBディスクを使えるようにするには 42

第2章 キーボード操作に馴れよう

1 キーボード各部の名前と機能 44
文字入力キー（薄い色の部分） 44
制御キー（濃い色の部分） 44
システムファンクションキー 45
各キーの機能 46
テンキーを使って数字を入力する 48

2 文字を入力する 49
入力モードについて 49
文字入力キーの使いかた 50

第3章 マルチメディアを楽しもう

1 Windows を使う 54
インストールソフトウェアについて 54
Windows の使いかた 55

2 サウンド機能を使う 57
内蔵スピーカについて 57
内蔵マイクについて 57
マイクや外部オーディオ機器を接続する 58
オーディオアプリケーションを使う 59
DOS でのサウンド機能 60

3 CD-ROM を使う
CD-ROM を使うときの注意 61
CD-ROM の出し入れ 62
CD-ROM で楽しむ 62

第4章 システムを拡張する

1 PCカードを使う 64
PCMCIA規格について 64
カードサイズについて 64
カードの差し込み 65
モデムカードを使う 67
LANカードを使う 68
Card Wizardについて 69

2 内蔵FAXモデムを使う 70
内蔵FAXモデムについて 70
内蔵FAXモデムを取り付けるには 70
内蔵FAXモデムを取り外すには 71

3 メモリを増設する 72
拡張RAMモジュールの種類 72

4 ハードディスクドライブを交換する 74
ハードディスクを取り外すには 74
ハードディスクを取り付けるには 75

5 外部キーボードやマウスを接続する 77
使用時の注意 77

6 外部モニタを接続する 78

第5章 システムの設定を変える

1 システムコンフィグレーションの設定 80
システムコンフィグレーションについて 80
メニューと操作方法について 81
各種の設定を行なう 83

2 パワーマネージメントの設定 88
パワーマネージメントについて 88
メニューと操作方法について 86
各種の設定を行なう 90

3 画面の解像度を変える 95
出荷状態の設定 95
ディスプレイドライバを変える 95
ディスプレイと解像度について 98

4 CONFIG.SYS の設定を変える 99
ドライバを有効/無効にする 99

第6章 トラブルが起きたら・・・

1 トラブルの原因と対処方法 102

Appendix

1 バックアップディスクを作成する 108
バックアップディスク作成の準備 108
バックアップディスク作成の手順 109

2 ソフトやドライバの再インストール 110
MS-DOS 6.2/Vの再インストール 110
MSWindows 3.1の再インストール 111
ディスプレイドライバの再インストール 112
MS Worksの再インストール 113
時刻補正ドライバの再インストール 113
オーディオアプリケーションの再インストール 114

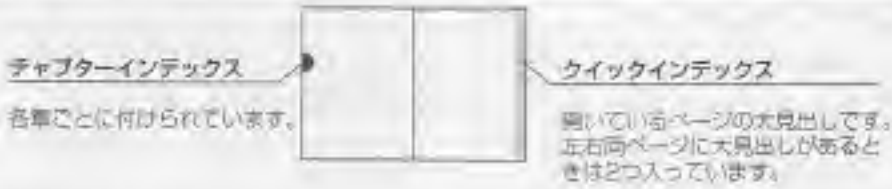
3 索引 117

4 製品の仕様 122
システム仕様 122
システムメモリマップ 123
システムI/Oマップ 124

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。

インデックスについて



チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく6つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindowsを立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めてやるときには必ずお読みください。	スタートアップガイド	1
キーボードとのキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードに慣れていない方は必ずお読みください。	キーボード操作に馴れよう	2
インストールされているWindowsとMS Works、本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。	マルチメディアを楽しもう	3
PCカードの使いかた、メモリやハードディスクを増設する方法、および内蔵FAXモデムのあつかい方法と外部周辺機器の接続方法について説明しています。	システムを拡張する	4
システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。	システムの設定を変える	5
トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動かしにくいときなどにお読みください。	トラブルが起きたら・・・	6
バックアップディスクの作成と、Windowsやデバイスドライバなどを再インストールする方法について説明しています。	Appendix	

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作に馴れよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
サウンド機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードや内蔵FAXモデムを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 Windowsとサウンド機能」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第6章 トラブルが起きたら・・・」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、102ページの「第6章 トラブルが起きたら…」のページをお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。
・本製品を購入された販売店、代理店の名称
　本製品のシリアル番号(コンピュータ筐体のラベルに印刷してあります)
・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　046-661-7358
FAX番号　045-662-0656
毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後4時
(祝祭日を除きます。)

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包材包装、パッキンにてご返送ください。

〒231　神奈川県横浜市中区太田町4-5ら横浜関東通ビル
　　株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

⚠注意　ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。

第1章

スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindowsを立ち上げるまでを、絵を使って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときにはぜひ読みください。

1 WinBook Quattroの機能を知る 14
2 梱包の内容を確認する 16
3 各部の名称と機能を確認する 18
4 ACアダプタの接続とバッテリの充填 24
5 電源のON/OFFとリセット 28
6 バックアップディスクの作成 30
7 日付と時刻を合わせる 31
8 レジューム機能とスピーカ音量を設定する 32
9 Windowsを起動させる 34
10 クライドポイントの使いかた 36
11 ドライブユニットを交換する 37
12 フロッピーディスクドライブの使いかた 40

1 WinBook Quattroの機能を知る

WinBook Quattroの主な機能や特長を紹介します。

●MS-DOS Ver6.2/V、
MS Windows3.1をプレインストール

●ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールで構成されている統合ソフトウェア　MS Worksをプレインストール

●サウンド機能を活用できる様々なオーディオアプリケーションをプレインストール

●PCカードウィザード機能
(Card Wizard)搭載

2 梱包の内容を確認する

ソーテックWinBook Quattroには、コンピュータ本体の他に次のような付属品とソフトウエアが含まれています。パッケージを開けたら、不足品がないかどうか確認してください。

ハードウエアと付属品

●FDDケーブル 1本

●ユーザ登録カード

●保証書

●フロッピーディスク
ラベル

●テックサポート
FAXシート

●WinBook Quattro
ユーザーズ
ガイド(本書です。)

●Microsoft Windows&
MS-DOSユーザーズガイド

●MS Works
ユーザーズガイド

インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。

●MS-DOS Ver6.2/V

Microsoft Disk Operating Systemの略で、一般的に「DOS」、または、「システム」と呼ばれています。
コンピュータの電源をONにすると最初に読みこまれるプログラムで、Windowsを含めてすべてのアプリケーションやプログラムを動かす基本となるものです。
「C¥>」と表示された状態から、コマンドを実行してファイルをコピーしたり、ディスクの中を見るなどの操作ができます。また、メモリを管理する役割もあります。
詳しい使いかたについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

●Microsoft Windows Ver3.1

米国マイクロソフト社が開発したシステムで、同時に複数のアプリケーションを実行できるマルチタスク機能を実現しています。また、グラフィックを使ったインターフェイス(GUI)を持ち、マウスなどを使って簡単な操作でアプリケーションを実行することができます。詳しい使いかたについては、「第3章 マルチメディアを楽しもう」(→54ページ)または、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

●Microsoft Works for Windows

ワードプロセッサ、表計算、データベース、通信の4つのツールが入っている統合ソフトウェアです。文書の作成をはじめとして、データの集計・計算・グラフ作成から、データの管理、パソコン通信まで、ほとんどの作業がこのソフトウェア1つで行なうことができます。詳しい使いかたについては、付属の「MS Worksユーザーズガイド」をお読みください。

●Card Wizard

PCカードをより有効に使いやすくするためのユーティリティで、PCカードの自動認識や装着されているカード種別の確認、各設定値の変更などができます。また、不適切な設定により正しく動作しない場合も、解決方法を画面を追って示し、トラブルを回避することができます。さらに、PCカードとアプリケーションを関連づけておく機能があり、たとえば、モデムカードを挿入すると自動的に通信ソフトを起動させるといったような使いかたができます。

3 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

カバーを開けるときは、手前のノブを押して、見やすい角度まで開きます。ACアダプタが接続されていなければ180度まで開けることができます。

カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。ONのままカバーを閉じると、サスペンドリジューム状態に入ります。

前面/上面

❶LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(→ 90ページ)

❷LCD画面の輝度調整ノブ

画面の明るさを調整します。(バッテリ動作中は輝度が自動的に最低に設定されます。)

❸電源スイッチ

サスペンド・レジューム状態にさせたり、サスペンド・レジューム状態から動作状態に戻すことができます。また、パワーマネージメントメニューの設定により、電源をON/OFFすることもできます。(→ 92ページ)

❹キーボード

キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。

❺グライドポイント

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(→ 35ページ)

❻ドライブユニット装着スロット

CD-ROMドライブユニット、または、フロッピーディスクユニットを装着します。(→ 37ページ)

⚠注意 アクセスランプが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データが破壊するおそれがあります。

❼ステータスLED

動作状態を表示します。(→ 23ページ)

❽電源LED

電源の状態を表示します。(→ 25ページ)

❾充電LED

充電の状態を表示します。(→25ページ)

❿リセットスイッチ

コンピュータを再起動させます。

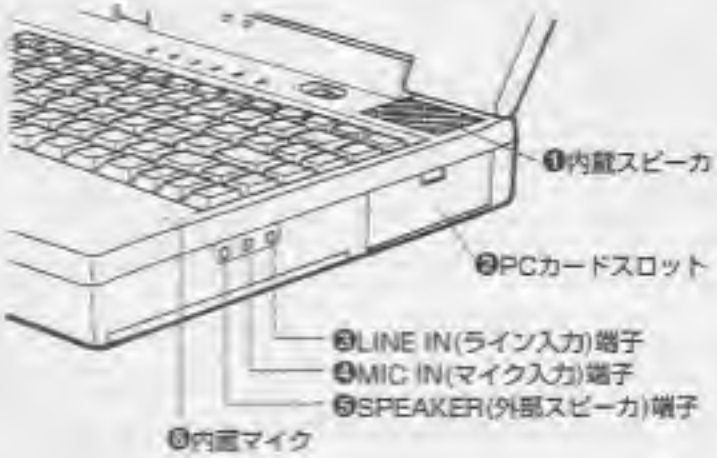
⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

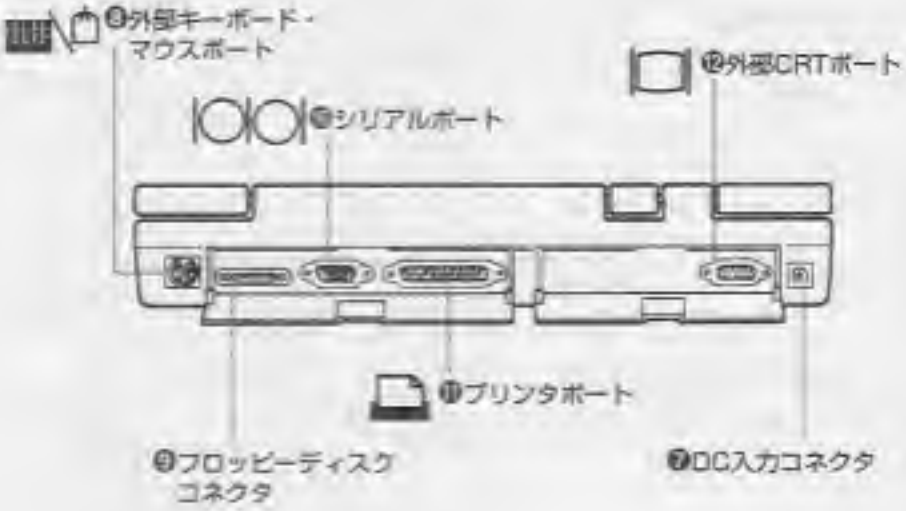
⓫内蔵FAXモデムスロットジャックカバー

内蔵FAXモデム装着時に使用します。(→ 70ページ)

右側面・後面

ノブを下げながら、ふたを開けてください。





❶内蔵スピーカ

35mm径のステレオスピーカです。(→ 57ページ)

❷PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(→ 64ページ)

❸LINE IN(ライン入力)端子

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 58ページ)

❹MIC IN(マイク入力)端子

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 58ページ)

❺SPEAKER(外部スピーカ)端子

外部スピーカのケーブルを接続します。音声はステレオで出力されます。(→ 58ページ)

⚠注意 ヘッドホンやイヤホンは接続しないでください。音が大きなまま長時間聴き続けると聴力障害を起こすおそれがあります。

❻内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 57ページ)

❼DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(→ 24ページ)

❽外部キーボード・マウスポート

PS/2キーボードやマウスを接続することができます。また、市販のキーボード・マウスアダプタを使用すればPS/2マウスを接続することもできます。(→ 77ページ)

❾フロッピーディスクコネクタ

フロッピーディスクユニットを接続することができます。

❿シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM2」～「COM4」に変えることができます。(→ 85ページ)

⓫プリンタポート

プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(→ 85ページ)

⓬外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(→ 79ページ)

底面

❶バッテリ装着スロット

バッテリパックを装着します。

❷バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。(→ 27ページ)

⚠注意 ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❸HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(→ 74ページ)

⚠注意 コンピュータが動作中はHDDカートリッジを取り出さないでください。

❹拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(→ 72ページ)

❺ドライブユニットロックボタン

ドライブボタンを固定するためのボタンです。

❻ドライブユニット取り出しボタン

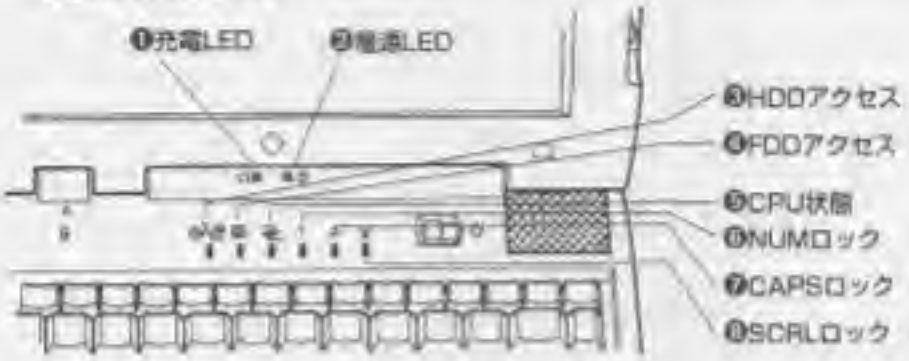
ドライブユニットを取り出すときにこのボタンを押します。

❼内蔵FAXモデムスロット

別売の内蔵FAXモデムを装着します。(→ 70ページ)

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



	❶充電LED	充電の状態を表示します。(→25ページ)
	❷電源LED	電源の状態を表示します。(→25ページ)
	❸HDDアクセス	ハードディスク、またはCD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。
	❹FDDアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
	❺CPU状態	CPUのスピードによって色が変化します。最高のスピードで動作しているときは緑色に点灯します。パワーセーブ機能が働いている、CPUスピードが「LOW」に設定されているときはオレンジ色に点灯します。
1	❻NUMロック	NumLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)が使えます。
A	❼CAPSロック	CAPLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
↓	❽SCRLロック	ScrLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意 HDDアクセスとFDDアクセスの点灯中に電源をOFFにしないでください。データが消えたり壊れる可能性があります。

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

最初に使うときは・・・

バッテリが充電されていない状態で出荷され、バッテリパックには絶縁紙がはさまれています。最初に、お使いになるときは、28ページ「バッテリパックの交換」をお読みの上、絶縁紙を取り外してから充電を行なってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

⚠注意 付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。

1 ACアダプタのプラグを、本体横のDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、充電LEDが橙色に点滅し、充電が始まります。

2 充電LEDの点滅が終わったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。
（充電が終わると、電源がONのときは緑の点灯、電源がOFFのときは消灯になります。）

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでも使いやすいです。
（海外で使うときは、プラグの形状を変えることで使えますのでご注意ください。）

Note 充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、電源がONのときは約一時間、電源がOFFのときは約2時間かかります。

充電LEDの意味

消灯	ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。また、充電に適した温度条件を超えているなど、これ以上充電できない状態にあります。
緑色の点灯	ACアダプタを使っているか、バッテリが100%～50%充電されている状態
黄色の点灯	バッテリが49%～25%充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリが24%～1%充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが故障されている、あるいは、ドライバが使われている状態
緑色の点滅	充電中です。

電源LEDの意味

消灯	電源OFFの状態です。
黄色の点灯	ACアダプタで動作しています。
緑色の点滅	ACアダプタで動作しており、サスペンドです。
緑色の点灯	バッテリで動作しています。
緑色の点滅	バッテリで動作しており、サスペンドです。

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

バッテリ残量10%未満 ▶ CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化
16秒おきにビープ音が鳴る
(CPUクロックスピードは強制的に遅くなります。)

バッテリ残量5%未満 ▶ 強制的にサスペンド状態に入る

警告が続けられたら
- ●ACアダプタを接続して充電する
- ●充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意 バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データファイルやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。また、バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れてしまいます。CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化し、ビープ音が鳴ったらすぐにデータをセーブしてください。

Note バッテリを節約するには・・・

- 使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
- パワーマネージメント機能を活かす。特にグローバルスタンバイ機能を有効にしておくと効果的です。
- サスペンドとレジューム機能を有効にする。
- なるべく、ハードディスクへアクセスしないようにする。

Note リチウム電池について

本製品のバッテリパックの他に別にリチウム電池が装着されています。コンピュータ内蔵のカレンダやシステムコンフィグレーションなどの内容はリチウム電池によって保存されていますので、バッテリパックを取り外してもこれらの内容が消えることはありません。

バッテリパックの交換

⚠注意 付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行なわないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。

2ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時かACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯、もしくは黄色に点灯していることを確かめてください。緑色に点灯・点滅しているときは、データをディスクにセーブするか、ACアダプタを差し込んでからバッテリパックを交換してください。(サスペンドの状態でも交換することができます。)

1 本体を裏返してから、バッテリパックスロットカバーを図の方向にスライドさせて取り外します。

2 バッテリパック取り出しボタンを、図の矢印の方向にスライドさせながらバッテリパックを引き抜きます。

Word サスペンド・レジューム

アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、レジューム状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能は、パワーマネージメント(→90ページ)で有効か無効かを設定できます。

3 本製品を初めて使うときはここで絶縁紙を取り除きます。

4 交換用のバッテリパックの端子面が奥に入るようにしてゆっくりとスロットに差し込みます。ここで取り出しボタンがロックされているのを確認してください。

5 確実に装着されているのを確認したら、カバーを元通りにします。

バッテリ容量インジケータ

バッテリパックには、バッテリ容量を確認することができるインジケータが付いています。バッテリ容量を確認するには横にあるボタンを押します。点灯状態とバッテリ容量は次の通りです。

緑色の点灯	ACアダプタを使用しているか、バッテリの50%～80%が充電されている状態
青色の点灯	バッテリの20%～50%が充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリの5%～10%が充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが充電されていないか、0%～5%が充電されている状態

5 電源のON/OFFとリセット

電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ON状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンド・レジュームさせる場合は32ページをお読みの上、設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の前面にあるノブを押してカバーを開いてください。

2 キーボードの右上にある電源スイッチを左にスライドさせます。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを左にスライドさせます。

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

Note 電源LEDの意味

消灯	電源がOFFの状態です。
黄色の点灯	ACアダプタで動作中
黄色の点滅	ACアダプタで動作中(サスペンド中)
緑色の点灯	バッテリで動作中
緑色の点滅	バッテリで動作中(サスペンド中)

Note 充電LEDの意味

消灯	ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていないその他です。
緑色の点灯	ACアダプタを使用しているか、100%～50%充電済み
緑色の点滅	49%～10%を充電済み
オレンジ色の点灯	9%～1%を充電済み
オレンジ色の点滅	バッテリが接続されていないか、0%～1%を充電されている状態
橙色の点滅	測定中

コンピュータをリセットする

コンピュータを使っていると、突然何も反応しなくなったり動作が不安定になることがあります。このような状態を「ハングアップ」といいますが、多くの場合、ソフトウェア側に原因があります。
ハングアップした場合、状態によっては、ある動作を行なえば元に戻ることがあります。(Note「ハングアップしたときは」参照)しかし、どうしても元に戻らないときは、リセットをかけてコンピュータを再起動させなければなりません。このとき、RAMに一時的に記憶されているアプリケーションで作りかけているデータも含めて、すべてのセーブされていないデータは消えてしまいます。
このような事態になったときに備えて、日頃からこまめにデータをセーブしておくように心がけてください。

⚠注意 リセットは、ほかのいかなる方法によっても対処できない場合を除き、むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。

リセットの方法

- Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押す。(Windowsの場合は、「Note」参照)
- 図の位置にあるリセットスイッチをボールペンの先などで押す。

リセットすると、再びMS-DOSやWindowsが読み込まれて再起動します。

⚠注意 リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。

Note DOS環境でハングアップしたときは…

Pause Break キーを押すか、Ctrl キーと C キーを同時に押してください。一部のアプリケーションでは、これだけでMS-DOSのプロンプト表示に戻ることができます。

Note Windowsでハングアップしたときは…

Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押すと、ハングアップ(応答なくなっている)アプリケーションだけを終了するか、それともWindowsを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。このとき Enter キーを押すと、ハングアップしたアプリケーションだけ終了できます。

6 バックアップディスクの作成

電源をONにすると、自己診断機能が働き、数秒後にその結果が画面に表示されます。

システムに異常が無い場合は、その後、次のメッセージが表示されます。

> ようこそ
>
> WinBook Quattroをお買い求めいただきまことにありがとうございました。わたしたちのコンピュータを有効活用になることでお客様の仕事、生活が一層発展されることを期待しています。
>
> 株式会社リーテック
>
> なにかキーを押すと引き続きバックアップディスケットの作成の作業に移ります。
>
> バックアップ作業後、以下のようタイプするとユーザーズガイドに記されていない、最新の情報を知ることができます。
>
> **README<Enter>**

本製品に付属している、MS-DOSやWindows、MS Works、および各種のユーティリティやドライバは内蔵ハードディスクにインストールされています。
万が一何らかのトラブルや故障が発生して、これらのプログラムを再インストールする必要が起きたときのために、フロッピーディスクにバックアップをとっておくことをお勧めします。
本製品では、簡単な操作でバックアップディスクを作成するバックアッププログラム(STBACKUP.EXE)が付属しています。
バックアップディスクの作成方法については、108ページ「バックアップディスクを作成する」をお読みください。
(このメッセージを表示させないようにする方法については、109ページで説明しています。)

Note 画面を見やすく調整しましょう

「ようこそメッセージ」が表示されているときに、LCD画面の右側にあるノブを回して、液晶画面の輝度を見やすくなるように調整してください。

Note READMEファイルを読みましょう

このドライブにある「README」ファイルには、このユーザーズガイドに記されていない補足説明や注意事項が書かれています。「ようこそ」と表示されている状態からのように入力してお読みください。
README↵

7 日付と時刻を合わせる

お買い上げ後、本製品を最初に使うときは、コンピュータ内蔵のカレンダと時計を合わせる必要があります。次の手順で行なってください。なお、ここでは日本語環境での設定方法を例に説明しています。

⚠注意 **カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに、他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。**

1 MS-DOSのプロンプト（C:¥>などが表示されている状態）でDATEと入力して↵キーを押します。

```
C:¥>DATE↵
```

2 次のメッセージが表示されます。正しい日付を"-"でなかって半角数字で入力してから↵キーを押します。正しい日付が表示されている場合は、そのまま↵キーを押します。

```
現在の日付は 1995-12-24(日)
日付を入力してください(年-月-日):1995-12-25↵
                                  年  月  日
```

英語環境のときは mm-dd-yyyyの順です。

3 TIMEと入力して↵キーを押します。

```
C:¥>TIME↵
```

4 次のメッセージが表示されますので、正しい時刻を24時間表記で半角数字で入力してから↵キーを押します。「時」と「分」の区切りは「:」で、「秒」と「秒」の区切りは「.」で区切ります。正しい時刻が表示されている場合は、そのまま↵キーを押します。

```
現在の時刻は 12:21:22.22
時刻を入力してください: 12:23:00.00↵
                        時  分  秒
```

Note **急に画面が黄ッ緑になったら・・・**

一定の時間キーを押さない状態が続くと、画面表示が消えることがあります。
これは、パワーセーピング機能を設定しているときにパワーセーピング状態に入ったことにより画面が消えたもので故障ではありません。何らかのキーを押すと元の表示に戻ります。

パワーセーピング機能の設定については、30ページ「パワーセーピング機能の設定」をお読みください。

8 レジューム機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

サスペンド・レジューム機能の設定

本製品には、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる「サスペンド・レジューム機能」が搭載されています。

この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロを一旦終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。

出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押したときに電源がOFFになるように設定されています。このとき、サスペンド・レジュームさせる場合は、次の手順で設定を変更してください。

1 Fn+Esc を同時に押して、パワーマネジメントメニューを表示させます。

2 Alt キーを押してから、P キーを押します。

3 ▼ キーで【Suspend Switch】を選びます。

4 ␣ キーを押して、電源スイッチの機能を設定します。
- 左側のチェックマークが消えている状態…電源ON/OFFとして機能
- 左側のチェックマークがついている状態…レジュームON/OFFとして機能

5 Esc キーを押して、S キーを2回押します。

6 最後に ↵ キーを押します。

Word パワーマネージメント

電力の消費量を減らすために様々な機能です。設定した一定の時間コンピュータのキーボード操作などをしなかった場合、自動的にシステムの電源をOFFにしたり、CPUの速度を遅くして電力の消費を抑えることができます。
(→ 88ページ)

スピーカの音量の調節

本製品にはスピーカが内蔵されています。DOSアプリケーションの場合、スピーカの音量は次の操作で調整することができます。
また、使用するアプリケーションによっては、別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調整してください。

Fn+F2 音量を上げる
Fn+F3 音量を下げる

Note Windowsでの音量調整は?

Windowsでの音量の調整は、サウンドアプリケーションのボリュームコントロールプログラムを使います。詳しくは、「第3章 マルチメディアを楽しもう」53ページをお読みください。

9 Windowsを起動させる

Windowsを起動させる方法を説明します。バックアップユーティリティが起動している場合は、Escキーを押して一旦終了させておいてください。

電源をONにして、各種のドライバやプログラムが読み込まれると、黒い画面の左端に「C:¥>」と表示され、カーソルが点滅します。
この状態で、何かのコマンド(命令)をキーボードから入力すると、アプリケーションが起動したり、ハードディスクの内容を見ることができます。

本体のハードディスクにインストールされている、Windowsを起動するときは、ここで「WIN」と入力し、続いて↵キーを押します。

(実際の画面とは異なります。)

Windowsのタイトルに続いて、画面に「プログラムマネージャー」といろいろなアイコンが表示されたことと思います。
また、画面の真ん中に表示されている矢印は「ポインタ」あるいは「マウスカーソル」と呼ばれ、画面の中を自由に動かすことができます。

Windowsの世界では、文字を入力する操作以外のほとんどを、ポインタでアイコンやメニューを選んで、それをクリックすることで行ないます。
「クリック」とは、マウスのボタンを押すことで、本製品の場合は、マウスの替わりに「グライドポイント」を使ってポインタを動かしたりクリックすることができるようになっています。
「グライドポイント」の使いかたについては、次のページで説明しています。

Word Windows

米国マイクロソフト社が開発したシステムで、同時に複数のアプリケーションを実行できるマルチタスク機能を実現しています。また、グラフィックを使ったインターフェイス(GUI)を持ち、マウスなどを使って直感的な操作でアプリケーションを実行することができます。

10 グライドポイントの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。Windowsやマウスを使うDOSアプリケーションでは、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意
- ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。
- ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

画面のポインタを動かすには・・・

グライドポイントは、本製品のキーボードの手前中央にあります。グライドポイントのパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

クリックするには・・・

マウスの左右のボタンに相当するボタンは、キーボードの手前中央に2つあります。ポインタをアイコンやボタン、メニューなどの位置に移動してから、このボタンを押すと、クリックすることができます。

実際に動かしてみよう

ここでは、実際にグライドポイントを使って、本製品のREADMEヘルプファイルを読んでみましょう。なお、Windowsの使いかたがよくわからないという方は、54ページ「Windowsを使う」を先にお読みください。

1 グライドポイントに軽く指を触れて動かし、【Winbook Quattro】グループであるアイコンの上にポインタをのせます。

2 素早く2回続けて左ボタンを押します。(これをダブルクリックといいます。)

3 READMEヘルプファイルが開きます。

4 読み終わったら、メニューバーの【ファイル】にポインタをのせます。

5 左ボタンを1回押したまま、ポインタを【ヘルプの終了】まで移動し、そこでボタンを離すと、ヘルプが終了します。

どうですか?うまくポインタが動きましたか?
慣れるまではうまく目的の場所でポインタが止まらないかもしれませんが、何度か使っているうちにコツがつかめるようになり、自在自在に動かせるようになります。

Note 外部マウスを接続したときの設定

グライドポイントはPS/2マウスと互換性があります。外部キーボードポートにPS/2マウスを直接接続した場合は内蔵のグライドポイントは無効とし、外部に接続したPS/2マウスが優先して動作します。外部キーボードポートにキーボード・マウスアダプタを経由してPS/2マウスを接続した場合はグライドポイントと外部に接続したPS/2マウスを同時に使用することができます。
内蔵のグライドポイントを使わない設定にしないと、使用するプログラムによってはうまく動作しない場合があります。このようなときは、システムコンフィグレーションメニューから、グライドポイントを無効に設定にします。(→85ページ)

11 ドライブユニットを交換する

本製品には、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブが付属しており、本体前面にはこれらを装着するスロットが装備されています。
ここでは、これらの取り外しと取り付けの方法について説明します。

ドライブユニットとは・・・

ドライブユニットは、本体に装着可能なドライブ装置のことです。本製品には、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブの2つのユニットが用意されており、用途により使い分けることができます。なお、出荷時は、本体にCD-ROMドライブが装着されています。

フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときは ▶

フロッピーディスクドライブユニット

CD-ROMからアプリケーションをインストールしたり、CD-ROMタイトルや音楽CDを再生するときは ▶

CD-ROMドライブユニット

取り外すには

ここでは、CD-ROMドライブユニットを例に説明していますが、フロッピーディスクドライブユニットの場合も取り外し方法は同じです。

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で交換することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

1 本体底面のドライブユニットロックボタンを矢印の方向にスライドさせます。

2 本体底面のドライブユニット取り出しボタンを矢印の方向にスライドさせます。

3 もう一方の手でドライブユニット下部の側面をおさえながら、ゆっくり引き出します。このときドライブを落とさないようにしてください。

取り付けるには

ここでは、フロッピーディスクドライブユニットを例に説明していますが、CD-ROMドライブユニットの場合も取り付け方法は同じです。

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で交換することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

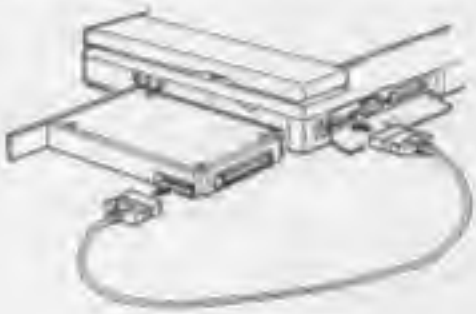
1 ドライブユニットの向きを間違えないように、スロットにゆっくりと押し込みます。ドライブユニットは図に示すような方向にしか装着できません。簡単に入らないときは向きが間違っています。無理に押し込まずに、もう一度正しい向きに入れ直してください。

2 正しく装着されたら、ドライブユニットロックボタンがロックされます。

3 本体前面のドライブユニット取りはずしボタンを矢印の方向にスライドさせます。

フロッピーディスクを外付けで使うには

CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブを同時に使うときは、付属のFDDケーブルを使って、フロッピーディスクドライブユニットを外付けにします。



12 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブユニットが付属されています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

⚠注意

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿気の多いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)に貼りください。また、別のラベルをあるときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

Word PS/2マウス

マザーボード上のマウスポートに接続するタイプのマウス。コネクタは通常6ピンのミニDINが使われています。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクト)といいます)することができるようになっています。

ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏面(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

- 書き込み禁止ノッチが上側になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
- 書き込み禁止ノッチが下側になっていると(穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。

フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Word CONFIG.SYS

MS-DOSの基本的なシステム動作環境を設定するファイルです。各種のドライバなどをCONFIG.SYSというこの名のファイルに登録しておくと、コンピュータが起動したときに自動的に読み込まれ、システムに組み込まれます。

1.2MBディスクを使えるようにするには

Microsoft MS-DOS Version6.2/V03モード対応ユーティリティ「1024FD.EXE」を使うと、NEC PC-9800シリーズなどで使われている1.2MBフォーマットのフロッピーディスクが読み書きできるようになります。
なお、出荷時には、「1024FD.EXE」は組み込まれていません。3モード対応として使うには、まず次の方法で「1024FD.EXE」をシステムに組み込んでください。

● 常に1.2MBフロッピーを読めるようにしておくには、CONFIG.SYSに登録します。

Windowsのメモ帳やエディタなどを使って、CONFIG.SYSに次の1行を追記します。

```
DEVICE=C:¥DOS¥1024FD.EXE
```

● 1.2MBフロッピーを使うときだけ組み込むには、MS-DOSのプロンプトが表示されている状態から直接実行します。

「C:¥>」と表示されている状態で次のコマンドを入力して、↵キーを押します。

```
C¥>1024FD↵
```

⚠注意 「1024FD.EXE」が組み込まれている状態で、WindowsのDOS互換ボックスからCOPYコマンドを使用する場合には、ベリファイオプション/Vは使用しないでください。Windowsが異常動作し、データが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制終了するおそれがあります。

CD-ROMドライブについては、61ページで説明しています。また、フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを同時に使うときは、付属のFDDケーブルを使って、フロッピーディスクドライブユニットを外付けにします。接続方法は、39ページで説明しています。

Note 読み書きできるフォーマットは?

出荷時のままの状態では、2DD(倍密度両面トラックタイプ)の720KB、2HD(倍密高密度トラックタイプ)の1.44MBのモード、「1024FD.EXE」を組み込むとそれに加えて1.2MBの読み書きが可能になります。

Note 1.2MBでのフォーマットは?

3モード対応ユーティリティは、1.2MBのフォーマットディスクのリードライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行なえません。また、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクからの起動も行なえません。

第2章

キーボード操作に馴れよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作に馴れていない方は必ずお読みください。

1 キーボード各部の名称と機能 …… 44
2 文字を入力する …… 49

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。

文字入力キー(薄い色の部分)

主にアルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CapsLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、49ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(濃い色の部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note ロック状態について

キーには、1回押すことに状態が切替わり、ロック状態になるキーと、何度でも押したときだけ機能するキーの2通りがあります。
ロックされるキーの中でもいくつかのキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。

システムファンクションキー

制御キーの一つであるFnキーとEscキー、または、ファンクションキーの組み合わせにより、パワーマネージメントのメニューを呼び出したり、スピーカの音量を調整することができます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

パワーマネージメントメニューを呼び出す(→ 88ページ)

Fn + Esc を押す

スピーカの音量を調整する

Fn + F9 音量を上げる

Fn + F8 音量を下げる

クロックスピードを変える

Fn + F1 1回押すごとにFAST(速い)/SLOW(遅い)が切り替わります。

LCD表示かCRT表示かを切り替える

Fn + F5 1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

ディスプレイについては、95ページをお読みください。

Note システムコンフィグレーションメニューの呼び出し

コンピュータの動作を設定するシステムコンフィグレーションメニューを呼び出すには、Ctrl + Alt + Bの3つのキーを同時に押します。なお、設定を変更した後は直ちにシステムが再起動されます。システムコンフィグレーションメニューを呼び出す前には、作成したデータなどは必ず保存しておいてください。

さらに詳しくは、「最新システムの設定を変える」(→ 60ページ)をお読みください。

各キーの機能

中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を指定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windowsの画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー

DOS環境で使っている場合は、表示されている画面のハードコピーをとることができます。Windowsを使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の前に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

⑨Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tabキーを押すと、一つ前のタブの間まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることも多いです。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

⑩CpLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⑪半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、Altキーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⑫Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を表示したり、表示方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⑬無変換キー

かな漢字変換システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押します。

⑭変換キー

かな漢字変換システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⑮カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。また、Altキーと同時に押すと「ローマ字入力モード」と「かな入力モード」が切り替わります。

⑯スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⑰カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。また、Fnキーと同時に使うと、ページ切り替えキー(PgUp/PgDn)、Home(ホーム)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⑱Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に[　　]で表記されている機能を使うときに、そのキーと同時に押します。

⑲Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや他の機能キーと組み合わせて使うことにより特定の動作をさせることができます。

⑳Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや他の機能キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能やカーソルの動きを変えることができます。

⑲NumLk(ナンバーロック)キー[ロックされます]

Fnキーと同時に押すと、キーボードの右半分の部分を数字キーとして使えるようになります。この状態をニューメリックキーパッドと、います。

⑳ScrLk(スクロールロック)キー[ロックされます]

キーを押したときの動きは各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。

Note 電源ONのままカバーを閉じると

サスペンド/レジュームが有効になっているときに、電源がONのままカバーを閉じると、サスペンド/レジューム状態に入ります。(→ 93ページ)

2 文字を入力する

キーボードから文字を入力する方法について説明します。
なお、かな漢字変換システムにより表示内容などが異なります。ここでは、本製品にインストールされているMS-DOS Ver6.2/Vに付属されているかな漢字変換システムを例に説明しています。(画面表示は、DOS環境で使っている場合です。)

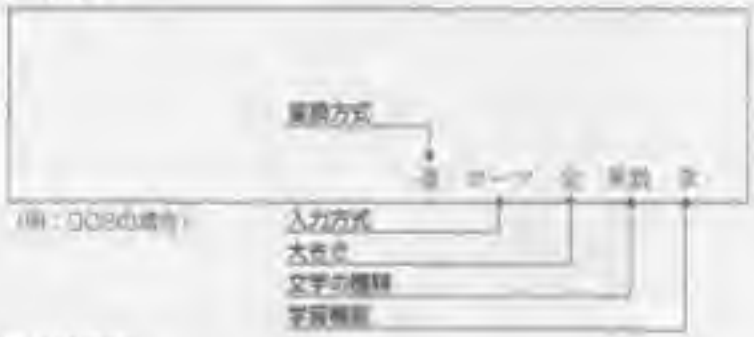
入力モードについて

電源をONにしてそのままの状態でキーボードから文字を入力すると、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボード上に表記されている記号だけしか入力することができません。全角の文字や漢字を入力するには、かな漢字変換システム(FEPやIME)を使う必要があります。

キーと

キーを同時に押してください。

かな漢字変換システム(FEPやIME)が立ち上がると、画面の右下に変換方式や入力モードが表示されます。



文字の種類と大きさ

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。漢字を入力するには、まずひらがなを入力してから漢字に変換します。

モード		画面表示	切替キー
文字種	ひらがな入力(あ)	ひら	ひらがな
	カタカナ入力(カ)	カタ	Shift + ひらがな
	英数入力(A、1)(ひら、カタ)	英数	英数 (Ctrl+)
半角/全角	半角入力	半	半角/全角
	全角入力	全	半角/全角

＊ひらがなと漢字には半角文字しかありません。

かな入力とローマ字入力

かな入力は、入力するキーをそのまま押してひらがなや漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のひらがなや漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときはKとAを続けて押すことで「か」が入力できます。

モード	画面表示	切替キー
ローマ字入力	ローマ	Alt+ヒラガナ
かな入力	なし	Alt+ヒラガナ

*Windows上でかな入力とローマ字入力を切り換えるときは、Ctrl+Shift+ひらがなを同時に押します。

漢字の入力

かな漢字変換システム(FEPやIME)が立ち上がっているときは、ひらがなで入力してから、変換キーを押すと変換する漢字の候補が表示され、漢字に変換することができます。操作方法の詳細については、付属の「Microsoft Windows & MS-DOSユーザーズガイド」のMS-IMEの項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CpLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。

Word テンキーで数字を入力する

Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがなぁ、ぃ、ぅ、				
カナ入力		かな	ひらがな	文字キー D
ローマ字入力		かな	ひらがな	文字キー A
小さいひらがなぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ				
カナ入力		かな	ひらがな	Shift＋文字キー C
ローマ字入力		かな	ひらがな	文字キー A の前に X
大きいカタカナ ァ、ィ、ゥ				
カナ入力		カナ	Shift＋カタカナ	文字キー D
ローマ字入力		カナ	Shift＋カタカナ	文字キー A
小さいカタカナ ャ、ュ、ョ、ぁ				
カナ入力		カナ	Shift＋カタカナ	Shift＋文字キー C
ローマ字入力		カナ	Shift＋カタカナ	文字キー A の前に X
アルファベット小文字(a、b、c)など*				
ローマ字入力		英数	英数	文字キー A
アルファベット大文字(A、B、C)など*				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	英数	英数	Shift＋文字キー A
	連続して入力	英数	Shift＋英数	文字キー A
かな記号(、。「」/)など				
カナ入力・ローマ字入力		かな	ひらがな	記号キー A B C
英記号(!@#$%&*()+)など*				
ローマ字入力		英数 / かな / カナ	Shift＋記号キー A B C	
数字*				
ローマ字入力		英数・かな・カナ	数字キー B	

* カナ入力の場合は、一旦ローマ字入力モードに切り替えてから入力します。

Note 大文字/小文字モードに固定するには

英数キーを押して、画面下のモード表示を「英数」にします。この状態で小文字固定モードになります。Shiftを押しながら英数キーを押すとロックがかかり、大文字固定モードになります。

Note 1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

Shiftキーを押しながらアルファベットキーを押すと、入力モードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードでShift＋キー「A」を同時に押すと「a」を入力できます。

MEMO

マルチメディアを楽しもう

インストールされているWindowsとMS Works、およびお別途に提供されているサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたなどについて説明しています。

1. Windowsを使う 54
2. サウンド機能を使う 57
3. CD-ROMを使う 61

1 Windowsを使う

Windowsの基本的な操作方法と、本製品にあらかじめインストールされているソフトウェアについて説明します。

インストールソフトウェアについて

本製品のハードディスクには、すぐにWindowsの世界をお楽しみいただけるように「MS Windows3.1」(以下Windows)と統合ソフトウェアの「MS Works」、およびオーディオアプリケーションなどがインストールされています。

● Microsoft Works

ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールが入っている統合ソフトウェアです。文書の作成をはじめとして、データの集計・計算・グラフ作成から、データの管理、パソコン通信まで、ほとんどの作業がこのソフトウェア1つで行なうことができます。詳しい使いかたについては、付属の「MS Worksユーザーズガイド」をお読みください。

●オーディオアプリケーション

音量や左右バランスを調整する〈ボリュームコントロール〉や、音声を録音・編集してWAVフォーマットファイルを作成する〈オーディオレコーダ〉、Windowsをより便利に楽しく使うことができる〈おしゃべり電卓〉〈おしゃべり時計〉など、本製品に搭載されているサウンド機能を有効に活用するためのアプリケーションです。
詳しい内容については、「オーディオアプリケーションを使う」(→59ページ)をお読みください。

Note ポインタについて

画面の真ん中には矢印が表示されていますが、この矢印を「ポインタ」あるいは「マウスカーソル」と呼び、画面の中を自由に動かすことができます。
Windowsの世界では、文字を入力するときいがいほとんどすべての操作を、ポインタでアイコンやメニューを選んで、それをクリックすることで行ないます。
本製品の場合は、ポインタを動かすためにグライドポイントが装着されています。
グライドポイントの使いかたについては、「グライドポイントの使いかた」(→35ページ)で説明しています。

Windowsの使いかた

Windowsは、マウスなどを使って、アイコンなどをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウ間での文字や画像のコピーも簡単にできます。
また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行することも可能で、例えば、MIDIファイルを再生させて音楽を聴きながら、ワープロで文書を作成するというような使いかたもできます。
ここでは、アプリケーションの起動方法やウィンドウの動かしかたなどの基本的な操作方法について説明します。詳しい使いかたについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」や、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

アプリケーションの起動と終了

起動するときは、各グループにあるアイコンにポインタを合わせて、素早く左ボタンを2回押します。

終了するときは、【ファイル】メニューにポインタをのせて左ボタンを1回押した後【終了】まで移動し、そこで↵キーを押します。左上のコントロールメニューボックスで素早く左ボタンを2回押して終了させることもできます。

Windowsを終了させるときは、「プログラムマネージャ」の【アイコン】から【Windowsを終了する】を選びます。

⚠注意 データを作成するアプリケーションを使っている場合は、終了させる前にデータを保存する作業が必要になります。

Note クリックについて

ボタンを1回押すことを「クリック」といいメニューなどを選択したりボタンを押すときに使います。
ボタンを素早く続けて2回押すことを「ダブルクリック」といいアイコンを選んでアプリケーションを起動するときなどなにかの処理を実行するときに使います。
ボタンはブライドポイントの使用に当ります。

Note ドラッグについて

ボタンを押したまま、ポインタやカーソルを動かすことを「ドラッグ」といいなにかを移動したり、グラフィックアプリケーションで線を引くときなどに使います。

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタを合わせて、左ボタンを押したままパッド上で動かしたい方向に指を動かします。

ウィンドウの大きさを変える/アイコンにする

ウィンドウ右上のボタンをクリックするとウィンドウを画面いっぱいに表示させたり、アイコン表示させることができます。

をクリック…ウィンドウを最大化

をクリック…元の大きさに戻す

をクリック…アイコンにする

ウィンドウの枠にポインタを合わせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。
(最大化の状態では、変えることはできません。)

Word 最大化とは?

ウィンドウが画面いっぱいに表示されている状態。逆にアイコンになっている状態を最小化といいます。

2 サウンド機能を使う

本製品には、16ビットサウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。また、サウンド機能を活用するためのオーディオアプリケーションもインストールされています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体には左右にステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、オーディオアプリケーションの「ミキサー」を使ってミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で搭載されている「ピッ」などの音を出力する音源です。
PCカード	PCカードから動作する音源です。 音声が機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、フルビットの音声を出力できます。 (モデムカードを除く)
デジタルサウンド機能	16ビットDACコンバータを使用したサウンド機能からの再生音源、および、FMシンセサイザで生成されたMIDIデータからの音源です。
マイク入力	内蔵マイクまたはマイク入力端子に接続されたマイクからの音源です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音源です。

内蔵マイクについて

本体上面の右手前にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

Note DOS環境で音量を調整するには

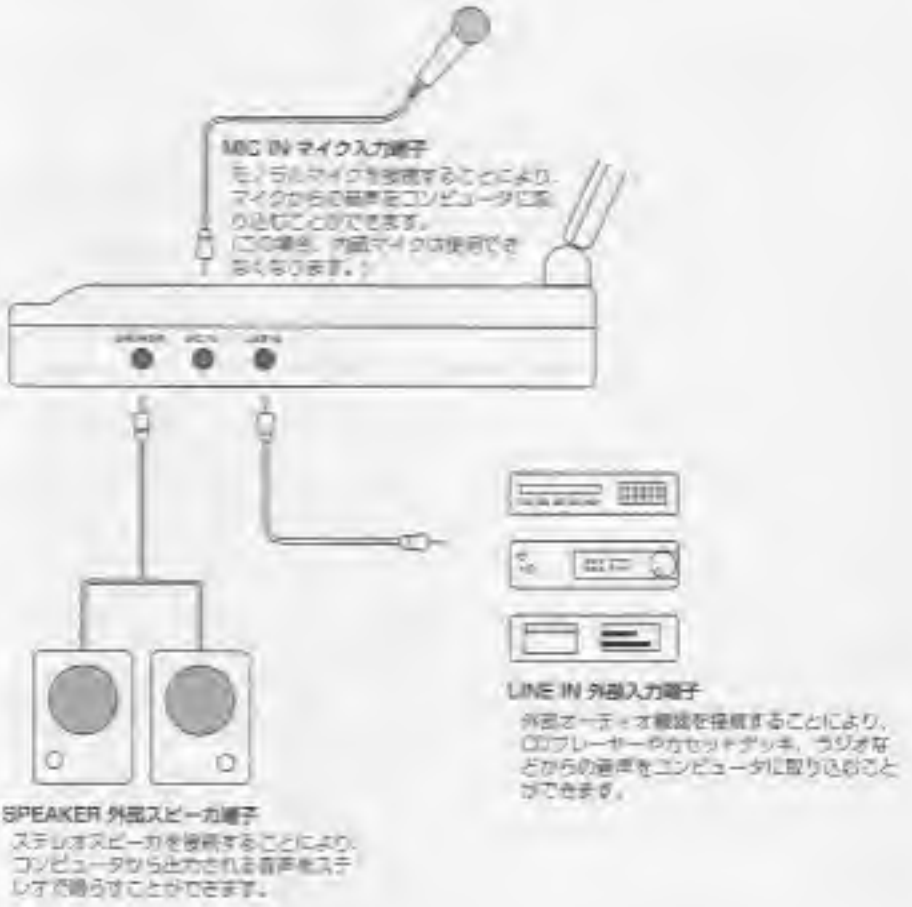
Fnキーと F2 または F3 キーを同時に押して音量を調整できます。
Fn+F2 音量を上げる
Fn+F3 音量を下げる

Note Windowsで音量を調整するには

「オーディオアプリケーション」グループにある「ボリュームコントロール」を使用して調整します。また、音声のミキシングのコントロールは「ミキサー」で行います。
→ 58ページ

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の右側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



Note PCスピーカとサウンド機能のミキサー

PCスピーカとPCカードからのサウンドは、一度、サウンドLSIのミキサー回路の"CD"系チャネルに入力され合成された後、スピーカに出力されます。
したがって"ボリュームコントロール"、"ミキサー"、"レコーディングコントロール"などの各アプリケーション上で"CD"チャネルの音量コントロールを変化させるとPCスピーカ、PCカードからのサウンドの音量も変化します。

オーディオアプリケーションを使う

本体のハードディスクには、サウンド機能を活用するためにこれらのオーディオアプリケーションがインストールされています。

ボリュームコントロール	再生中の音量とステレオバランスを調整します。
オーディオレコーダ	音声を録音、編集し、WAVフォーマットのファイルに圧縮して記録することができます。また、WAV、AUDフォーマットのファイルを再生する機能を備えます。
レコーディングコントロール	各音声ソースの録音時の音量やバランスを調整します。
ミキサー	各音声ソースの再生時の音量やバランスを調整します。
エクステンデッドレコーダ	長時間の音声を録音、圧縮してWAVフォーマットのファイルに記録することができます。
オーディオクリップライブラリ	各種のオーディオファイルをライブラリ化して管理することができます。
おしゃべり電卓	数字を音声で読み上げることができる電卓です。
おしゃべり時計	時間を音声で読み上げることができる時計です。
おしゃべりストップウォッチ	計測時間を音声で読み上げることができるストップウォッチです。
おしゃべりタイマー	残り時間を音声で読み上げることができるタイマーです。
チャイム	時刻毎や設定した時刻にチャイムを鳴らすことができます。
オーディオリマインダ	音声により2通りのアラームを鳴らすことができます。

これらのアプリケーションはすべてはオーディオアプリケーショングループ」にあり、各アイコンをダブルクリックすると起動します。

操作方法については各オーディオアプリケーションのヘルプをお読みください。

ヘルプを読むには・・・

メニューバーに【ヘルプ】があるアプリケーションは、【ヘルプ】をクリックしてその中にある項目を選んで表示させます。

メニューバーに【ヘルプ】がないアプリケーションは、左上のコントロールメニューボックスをダブルクリック(または[alt]+[ ])して表示されるメニューから【ヘルプ】を選んで表示させます。

DOSでのサウンド機能

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPRO(FMシンセサイザ機能を除く)と互換があります。
ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOS用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPRO」を選択してください。
また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行なえないソフトウェアもあります)

I/Oポートアドレス　:220H
IRQチャネル　　:5
DMAチャネル　　:0
データビット幅　　:8bit

3 CD-ROMを使う

本体のドライブユニットスロットに付属のCD-ROMドライブユニットを装着して、CD-ROMを使う方法について説明します。
CD-ROMドライブユニットの装着方法については「11 ドライブユニットを交換する」(→ 37ページ)で説明しています。

CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

⚠注意

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

強い衝撃を与えたり表面にキズをつけないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。誤動作やエラーの原因となります。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

Note CD-ROMドライブを装着させるには

CD-ROMドライブ用のASPIドライバモジュールと「MSCDEX.EXE」が必要です。本製品の出荷時には、装着時にそれらがすでに組み込まれるよう設定になっています。
出荷時の設定から変更した場合は、再度組み込まれるように「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」を書き換えてください。(→ 99ページ)

Note イジェクトされないときは

何らかの原因でイジェクトボタンを押してもトレーが出なくなったときは、電源がOFFの状態でイジェクトボタンの右横の小さな穴にピンを差し込んでください。ディスクが排出されます。
なお、この操作は電源が切れているときのみ有効になりますのでご注意ください。

CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 イジェクトボタンを押します。

3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレーに静かにのせます。

4 もう一度イジェクトボタンを押します。

5 取り出すときは、アクセスランプが点灯していないのを確認してからイジェクトボタンを押します。

CD-ROMで楽しむ

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本製品ではこれらすべてのCD-ROMを再生することができます。

● CD-DA
音楽用CDです。Windowsのメディアプレーヤーで再生させることができます。

● CD-ROM XA
パソコンのデータやアプリケーションなどを記録することができる最もよく使われているCD-ROMです。

● Photo CD
1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録することができる規格です。Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、内蔵FAXモデムの取り付け方法、メモリやハードディスクを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

1 PCカードを使う 64
2 内蔵FAXモデムを使う 70
3 メモリを増設する 72
4 ハードディスクドライブを交換する 74
5 外部キーボードやマウスを接続する 77
6 外部モニタを接続する 78

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。また、ハードディスクにはWindowsでPCカードの認識や各種の設定を行なうユーティリティ「Card Wizard」がインストールされています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードとLANカードを使うときの注意事項などについて説明します。

PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

カードサイズについて

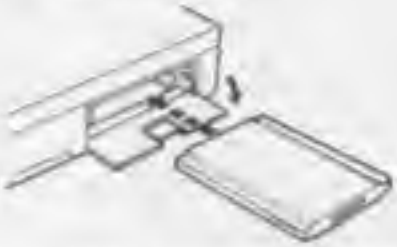
PCカードには、現在、TYPE Ⅰ(厚さ3.3mm)、TYPE Ⅱ(厚さ5.0mm)、TYPE Ⅲ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPE ⅠまたはTYPE Ⅱのカードを2枚、またはTYPE Ⅲのカードを1枚装着することができます。

カードの抜き差し

PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
なお、装着する前は、PCカードを利用するアプリケーションを実行しておいてください。例えば、モデムカードを使うときは、先に通信ソフトウェアを実行します。逆の順序では正しく動作しません。

カードを装着する

1 カードスロットカバーを図のように開けます。



2 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタがついているほうを表にして、ゆっくりと差し込みます。正しく装着されると、カードイジェクトボタンが飛び出します。

TYPE II のカードの場合、スロット2(下)に差し込みます。

⚠注意 異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。

Note ビープ音が鳴らないときは

システムコンフィグレーションのPCスピーカが設定されていないようになっています。(→ 86ページ)

Note 装着されているカードを調べる

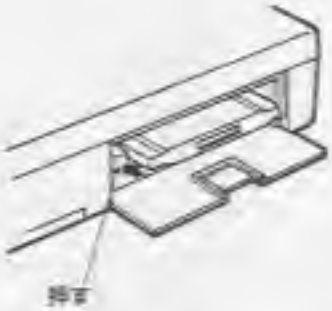
装着されている、どのPCカードであるかの情報を調べるには必要のときに使います。Windowsでは、[System Soft Tools]グループにあるCard Wizardを起動しメニューから[表示]-[カード情報]を選びます。また、DOS環境では、[CARDWIZ]ディレクトリにあるCARDINFO.EXEを次のように実行します。
C:¥CARDWIZ>CARDINFO

3 正しくカードをドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が1回鳴ってシステムがカードを認識します。

カードを取り外す

1 取り外したいカードが装着されている側の、カードイジェクトボタンを押します。

2 カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。
システムの動作中に、カードが取り外されたときは、ビープ音が2回鳴ります。



⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。

Note PCカードを使わないとき

PCカードを使わないときは、CONFIG.SYSの中の「CARDWIZ」ディレクトリを指定している行の先頭に「REM」の文字を付けて、ドライバの組込まれないようにしてください。メモリの消費量を節約できます。

```
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥SSDIRRUS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CS.EXE
:
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CARDID.EXE
```
↑ 付ける

モデムカードを使う

モデムカードを装着して電話回線をつなぐと、MS Worksの通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

	COMポート番号	IRQ	アドレス
最初のモデムカード	2	3	3E8h
2枚めのモデムカード	3	10	2E8h

モデムを使ったアプリケーションの通信ポート、割り込みチャンネル(IRQ)を設定する場合は、上記の説明にあわせて行ってください。
なお、内蔵FAXモデムが装着されているときは、2枚目のモデムカードを使用することはできません。

システムスタート時のメッセージ

システムのスタート時に以下のような警告メッセージが表示されますが、これはエラーではありません。

```
Systemsoft Plug-N-Play Card Services Allocation Utility Version 2.xx
Copyright 1993 Systemsoft Corporation. All Rights Reserved.
WARNING: Conflict detected with IRQ(s) starting at IRQ3
Verify and change the contents of CSALLOC.INI and reboot.
```

MS Worksの通信ツールを使うときの注意

MS Worksの通信ツールとモデムカードを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・モデムカードは、MS Worksを起動する前に装着してください。
MS Worksが起動してからモデムカードを装着しても、認識されません。

・MS Worksの通信ツールのデフォルトポートは内蔵FAXモデム、つまりCOM2に設定されています。COM2以外の設定をデフォルトで使用したい場合は、【ツール】、【環境設定】の通信の設定を、現在のCOM2から希望するポートに切り替えてください。

・【設定】の【モデムの設定】を実行する場合に、MS Worksのヘルプ"いっしょにやってみよう"を開くと、PCMCIAのエラーメッセージが正しく表示されないことがあります。このような場合には、あらかじめ"いっしょにやってみよう"を閉じてからモデムの設定を実行してください。

・MS WorksはCOM1からCOM4の各通信ポートにスキャンを行います。この場合、PCMCIA通信ポートに割り当てられているCOM2からCOM4でPCMCIA通信ポートが存在しない旨のエラーメッセージが何回か発生します。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

	I/Oアドレス	IRQ	メモリ1	メモリ2
最初のLANカード	300H	10	D4000H	D8000H
2枚めのLANカード	310H	5	D6000H	DC000H

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、設置方法が決められています。この場合、カード専用ドライバをインストールしてCONFIG.SYSを書き換えたり、EMM386メモリマネージャに専用の設定を行う作業が必要になります。
LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

Card Wizardについて

本体のハードディスクには、PCカードを使いやすくするためのユーティリティ「Card Wizard」がインストールされています。
「Card Wizard」にはかのような機能があります。

● **PCカードスロット情報の表示**
PCカードスロットに装着されているカードの種別や各種の設定値が確認できます。

● **PCカード設定状況の表示と設定**
PCカードが使用しているI/Oアドレス、IRQやメモリなどの設定値を表示させたり、設定を変更することができます。また、不適切な設定によりうまく動けない場合も、状況を確認することにより問題の解決が図れます。

● **PCカードの抜き差しの自動認識**
PCカードの抜き差しを自動的に認識し、そのカードを使えるように設定します。また、抜き差し時にメッセージを表示させたりサウンドを鳴らすこともできます。

● **PCカード挿入時のアプリケーション自動起動**
PCカードとアプリケーションを関連づけておくことができます。PCカードが挿入されると、それに関連づけられているアプリケーションを自動的に起動させることができます。(例 モデムカードを挿入すると通信ソフトが起動)

「Card Wizard」の使用方法については、ヘルプファイルに詳しく書かれています。[System Soft Tools グループ]にある[Card Wizard Help]アイコンをダブルクリックし、ヘルプファイルを読んでお楽しみください。

Word I/Oアドレス

CPUが周辺機器とデータのやり取りをするために使用するチャネルです。パソコンの番地が割り当てられており、複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要があります。

Word IRQ

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルです。
パソコンの番地が割り当てられており、複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要があります。

2 内蔵FAXモデムを使う

本製品には、別売の内蔵FAXモデムを装着するためのスロットが搭載されています。ここでは、このスロットへの内蔵FAXモデムの取り外しと取り付けの方法について説明します。

内蔵FAXモデムについて

内蔵FAXモデムを装着すると、本製品にデータの送受信とFAXの送受信機能が加わります。電話回線に接続して、MS Worksの通信アプリケーションを起動させるだけで、簡単にパソコン通信を行なうことができます。本製品で作成したデータや電子メールなどを送ったり、様々な情報を受けることが可能になりますので、本製品をさらに幅広く活用できます。

内蔵FAXモデムの設定

COMポート番号	IRQ	アドレス
2	3	2F8

この設定は、システムコンフィグレーションの【Setup】のComponent-COM Portsで変更することができます。

内蔵FAXモデムを取り付けるには

⚠注意 取り付けの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

1 本体後面の内蔵FAXモデムスロットカバーを図の方向に開けます。

2 内蔵FAXモデム本体を、図の方向にゆっくりと差し込みます。

3 内蔵FAXモデムカバーのモジュラージャック差し込み口を折り曲げて、モジュラージャックを出せるようにします。

4 内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉じます。

内蔵FAXモデムを取り外すには

⚠注意 取り外しの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 82ページ)

1 本体底面の内蔵FAXモデムスロットカバーを図の矢印に開けます。(取付図参照)

2 内蔵FAXモデム本体を、ゆっくりと引き抜きます。(取付図参照)

3 内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉じます。(取付図参照)

⚠注意 内蔵FAXモデムは電気等の障害を受けやすいため、取り外した後は必ず元のパッケージに入れて保管してください。

3 メモリを増設する

本製品には、8MBのシステムメモリがマザーボード上に装着されていますが、DIMM型拡張RAMモジュールを増設することにより最大40MBまでメモリを使うことができるようになります。

⚠注意 DIMM型拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。

拡張RAMモジュールの装着

本製品には、4MB、8MB、もしくは16MBタイプの3種類の拡張RAMモジュールを2枚までを装着できます。

⚠注意 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントメニューでの電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

1 本体背面の拡張RAMエリアのカバーを開けます。

2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。

Note 異なる容量のモジュールを装着するときは

4MB拡張RAMモジュールを他のサイズのモジュールと共に追加する場合は、必ず4MB拡張RAMモジュールを上にして装着してください。下に装着した場合には正しくメモリ容量を得ることができません。

3 拡張RAMエリアのカバーを閉じます。

4 電源をONにすると、RAM容量が変更前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 Ctrl + Alt + S を同時に押してシステムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

7 システムコンフィグレーションメニューを終了させます。
【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→ 85ページ)をお読みください。

4 ハードディスクドライブを交換する

本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してリーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

⚠注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

ハードディスクを取り外すには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

1 本体を裏返してから、カバーを図の方向にスライドさせて取り外します。

2 ハードディスク下部の側面を持ちながら、ゆっくり引き出します。このときドライブを落とさないように注意してください。

ハードディスクを取り付けるには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)

1 コネクタをそろえるようにして、ゆっくりと押し込みます。ハードディスクは、図に示すような方向にしか装着できません。簡単に入らないときはかなり間違っています。無理に押し込まずに、もう一度正しい向きに入れ直してください。

2 カバーを元通りに取り付けます。

3 電源をONにすると、機種の装着数と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

4 Ctrl+Alt+S を同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

5 システムが装着されたハードディスクの情報を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に装着されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブは、¥DOS、¥Windowsと名付けられたディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

6 システムコンフィグレーションメニューを終了します。

【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの新しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→ 80ページ)をお読みください。

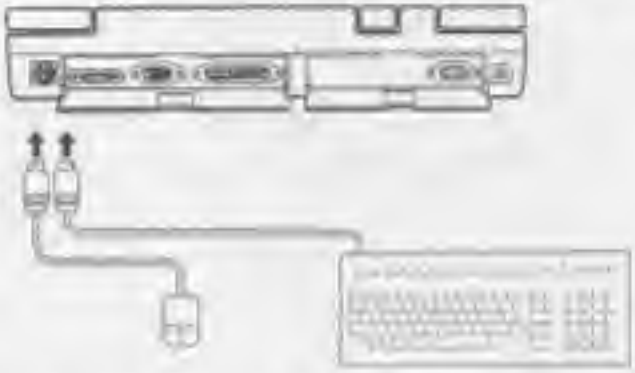
Note 新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブを使うには、ドライブをフォーマット(初期化)する必要があります。MS-DOSでは、FDISKコマンドを使ってMS-DOS領域と拡張MS-DOS領域を作成し、FORMATコマンドでドライブを実際に使えるように初期化できます。新しい方法については、付属のWindows/MS-DOSユーザーズガイドをお読みください。

5 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボード・テンキーパッドやマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードとマウスを接続することができます。

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)



本体背面の右側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボード・テンキーパッドのケーブル、もしくは、マイクロソフトPS/2マウスを接続します。
接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。

使用時の注意

PS/2マウスを直接外部キーボードコネクタに接続した場合、内蔵クライドポイントは自動的に使えなくなります。また外部キーボード・マウスアダプタを使用してPS/2マウスを接続した場合は、内蔵クライドポイントとPS/2マウスを同時に使うことができます。
なお、PS/2マウスでも一部のメーカーの製品では、サスペンド・レジューム、およびクライドポイントとの同時使用に対応しているものがあります。対応していない製品を使っているときにサスペンド・レジューム状態に入ると、マウスカーソル(ポインタ)が動かなくなったり入力操作ができなくなりますのでご注意ください。

Note 外部キーボードとマウスを同時に使う

別売のキーボード・マウス接続アダプタを接続すると、PS/2マウスとPS/2外部キーボードを同時に接続できます。なお、IBM機の接続アダプタを使用した場合は、キーボードとマウスの表示が逆になります。キーボードの表示側にはマウス、マウスの表示側にはキーボードを接続してください。

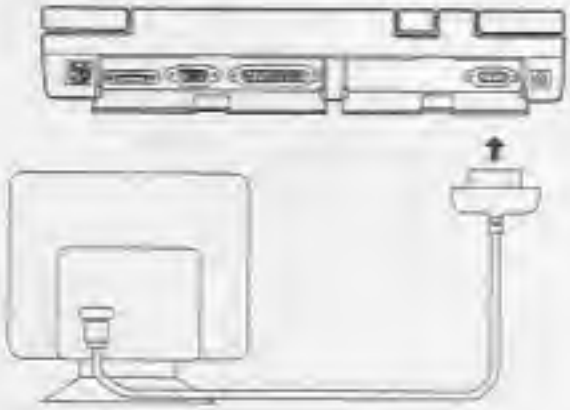
Note 外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドを接続すると、数字キーに切換えられます。内蔵キーボードで数値の入力をおこなったり同時に使用する場合は、内蔵キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。なお、使用できる製品については弊社テクニカルサポートセンターへお問い合わせください。

6 外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、1024×768ドットの解像度で表示できるようになり、Windowsをより広い画面で快適に使うことができます。

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で接続することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 92ページ)



コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを接続します。システムコンフィグレーションメニューのVGAのLCD/CRT設定がCRTまたはBOTHの場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCDまたはBOTHの設定にしてください。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→80ページ)をお読みください。

Note 一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F1を1回押すことに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

システムの設定を変える

システムコンフィグレーションを使ってシステムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について解説しています。

1.システムコンフィグレーションの設定 80
2.パワーマネジメントの設定 88
3.画面の解像度を変える 96
4.CONFIG.SYSの設定を変える 99

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

- カレンダの日付と時刻を設定する(→ 83ページ)
- 起動方法と起動ドライブを設定する(→ 83ページ)
- ディスプレイモードを設定する(→ 83ページ)
- パスワードを設定する(→ 84ページ)
- キャッシュメモリを使うかどうか設定する(→ 84ページ)
- ハードディスクドライブの環境を設定する(→ 84ページ)
- COMポートを選択する(→ 85ページ)
- プリンタポートと動作モードを選択する(→ 85ページ)
- キーボードの動作を設定する(→ 85ページ)
- 起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする(→ 85ページ)
- グライドポイントを使うかどうか選択する(→ 85ページ)
- サウンド機能を使うかどうか選択する(→ 86ページ)
- スピーカから音を鳴らすかどうか選択する(→ 86ページ)
- システムコンフィグレーション画面の色を変更する(→ 86ページ)
- メニューを簡易化する(→ 86ページ)
- 設定をデフォルト状態に戻す(→ 86ページ)
- デフォルト値をリストアする(→ 86ページ)
- システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する(→ 86ページ)

⚠注意 システムコンフィグレーションを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、システムコンフィグレーションで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態で[Ctrl]と[Alt]と[3]キーを同時に押します。

Windowsが起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行なえません。必ずWindowsを終了させてからこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューが並び、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は[Alt]を押してから[←][→]キーでメインメニューを選び、[↓]キーを押すとプルダウン状に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

(項目の選択・設定の方法は)

(画面の設定例です)

- メインメニューを選択するには …… Alt キーを押してから、◀▶キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- サブメニューを選択するには …… ▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- 項目を移動するには …… Tab キーを押します。
- メニュー項目や設定を確定するには …… ↵キーを押します。
- 設定を変更する前に元に戻るときは …… Esc キーを押します
- サブメニュー内で有効・無効を設定するには …… ___キーでチェックマーク(✓)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- 項目内で有効・無効を設定するには …… ▲▼キーで移動し、___キーでマーク(●)の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- 機能を使用しない設定にするには …… 【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- 終了するには …… メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、Esc キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に戻ることができます。

(設定を変更して終了させるときは)

【Save and Exit】を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。Esc キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

(設定を変更して再起動させるときは)

【Save and Reboot】を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了し、システムを再起動します。Esc キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM. The
computer will be rebooted!!!
```

(設定を無効にして終了させるときは)

【Exit(No Save)】を選択して↵を押し、もう一度↵を押すと変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

各種の設定を行なう

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で説明しています。

● **カレンダの日付を設定する**

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている日付が表示されますので、項目を移動して数字キーで日付を入力します。数字は日/月/年の順番で並んでいます。

● **カレンダの時間を設定する**

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている時刻が表示されますので、項目を移動して、数字キーで時間を入力します。数字は時/分/秒の順番で並んでいます。

● **起動方法を設定する**

【Startup】-【FastBoot】

クイックブート/ファーストブートを設定すると、メモリテストを行なわずに起動します。この場合、システムの立ち上げが速くなります。

● **起動ドライブを設定する**

【Startup】-【Boot Device】

起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスク、PCカードのうちのいずれかから選択します。

● **ディスプレイモードを設定する**

【Startup】-【VideoSelect】

BOTHを選択するとCRTとLCDを同時に表示します。LCDはLCDのみ、CRTはCRTのみを表示します。

Note 起動ドライブについて

デフォルトでは、ドライブAにフロッピーディスクドライブにMS-DOSのシステムがあればそこから起動し、システムがなければドライブCのハードディスクから起動する設定になっています。

● パスワードを設定する

【Startup】-【Password】

Enable Password for Boot-up　　システム起動時

Enable Password for SCU Changes　システムコンフィグレーション起動時

システム起動時、またはシステムコンフィグレーション起動時にパスワードを入力させることができます。

いずれの場合もパスワードに使用できるのは英、数字のみで、4文字から8文字の長さで設定します。

パスワードの入力を間違った場合は3回まで再入力できます。3回とも間違えた場合は、システムが再起動されます。

```
Enter Password:_____
```

⚠注意　パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

● キャッシュメモリを使うかどうか設定する

【Memory】-【L1 Cache Enable】1次キャッシュ

【Memory】-【L2 Cache Enable】2次キャッシュ

特に必要がない限りキャッシュは有効にしてください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードが遅くなります。

●ハードディスクドライブの環境を設定する

【Disks】-【Hard Disk】

ハードディスクドライブのディスクタイプなどを設定することができます。

ハードディスクドライブを交換した場合は、この項目を選択して設定を読み込ませる必要があります。また、「Disk Type」は常に「Auto-ID」に設定しておかなくてはなりません。

⚠注意　「Auto-ID」以外の設定にすると正常に動作しなくなります。また、シリンダやヘッドなどの項目は不用意に変更しないでください。

● **COMポートを選択する**

【Components】-【COM Ports】

シリアルポート(COM A)は、COM1(3F8)に、内蔵FAXモデム(Internal Modem)は、COM2(2F8)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはCOM1からCOM4の間で任意に設定できます。

● **プリンタポートと動作モードを選択する**

【Components】-【LPT Port】 ポートの設定

【Components】-【LPT Type】 動作モードの設定

通常はLPT1(378h)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはLPT2に設定することができます。動作モードは、通常「Bidirectional (PS-2)」に設定しておきます。

● **キーボードの動作を設定する**

【Components】-【Keyboard Repeat】

キーボードのオートリピートの間隔やオートリピートが始まるまでの遅延時間を設定できます。間隔は2cps(2文字/秒)から30cps(30文字/秒)までの範囲で設定できます。遅延時間は1/4秒(250ms)から1秒(1000ms)までの範囲で設定できます。

● **起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする**

【Components】-【Keyboard Numlock】

システム起動時にキーボードのナンバーロック機能を有効にします。最初からテンキーパッドを使うときは有効にしておきます。

● **グライドポイントを使うかどうか選択する**

【Components】-【GlidePoint】

外部シリアルマウスを使用するために、内蔵グライドポイントの使用を禁止することができます。

Word オートリピート

ほとんどのキーは、押し続けることで連続してその機能を繰り返したり、文字を入力することができます。このように、何度も続けて押したときと同じ状態になることを「オートリピート」といいます。

● **サウンド機能を使うかどうか選択する**
【Components】-【Sound Chip】
PCカードスロットに別のサウンドカードまたは弊社MMU-2000を接続するときは、この設定を無効にします。

● **スピーカから音を鳴らすかどうか選択する**
【Components】-【Speaker】
チェックマークが付いているとスピーカから音が出ます。
なお、この機能で制御できるのはPCスピーカ(ビープ音)とPCカードからの音のみです。

● **システムコンフィグレーション画面の色を変更する**
【Startup】-【Configure SCU】-【ColorSheme】
色の設定は Default Colors/Alternate Colors/Monochrome/Inverse Mono の4種類から選択します。

● **メニューを簡易化する**
【Startup】-【Configure SCU】-【Easy Menu】
メニューを簡易化させて表示します。

● **設定をデフォルト状態に戻す**
【Exit】-【Defaults】
各項目の設定値をデフォルトに戻します。
各項目のデフォルト値は次ページのとおりです。

● **デフォルト値をリストアする**
【Exit】-【Restore Settings】
システムコンフィグレーションのデフォルト値をリストアします。

● **システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する**
【Exit】-【Version info】
システムコンフィグレーション(BIOS)のバージョンおよび作成日付が表示されます。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Standard	Date and Time	No effect	デフォルトはありません
	Fast Boot	Not Fast Boot	メモリーテストを実行します
	Boot Device	Diskette A	フロッピーから最初にブート
	Video Select	LCD	LCDにのみ表示
	Password	Password Disabled	なし
	Configure SCSI	Default Colors	
	-	Complete Menus	
Memory	L1 Cache Enable	Enable	CPUキャッシュオン
	L2 Cache Enable	Enable	外部キャッシュオン
Disks	Hard Disk	Auto-ID	自動設定
Components	COM Ports - COM4	COM1 (3F8h)	シリアルポートはCOM1に設定
	Internal Modem	COM2 (2F8)	内蔵モデムはCOM2に設定
	LPT Ports	LPT1 (378h)	プリンタポートはLPT1設定
	LPT Type	Bidirectional (PS/2)	
	Keyboard Numlock	Not Num Lock	NUMロックオフ
	Keyboard Repeat	Typematic Rate	10CPS (1文字/秒)
	-	Typematic Delay	500ms (0.5秒)
	Graphics	Enable	グラフィックインジケータを使用できる状態
	Sound	Enable	内蔵サウンドを使用します
	Wakeup	Enable 3F	PCスピーカからのウェイク
Power	Enable Power	Saving Enable	パワーセーブを行なう
	Battery - Crit	Disabled	
	Low Power Setting	Enable	
	High Power Setting	Enable	
	Quickrise	Full speed	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disabled	サスペンドスイッチとしてではなく ON/OFFスイッチとして動作
	Suspend Controls	-	System Timeout Save
		-	Alarm Resume Disabled
		-	(時刻設定レジューム無し)
	Cover Switch	Suspend	サスペンドを行なう

2 パワーマネージメントの設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのパワーセーピング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド・レジューム機能が搭載されています。ここでは、これらの設定を行なう方法について説明します。

パワーマネージメントについて

パワーメネージメントとは、パワーセーピング機能やサスペンド・レジューム機能を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

- パワーセーピング機能を設定する(→ 90ページ)
- サスペンド・レジューム機能を設定する(→ 92ページ)
- カバーを閉じたときの動作を設定する(→ 93ページ)
- ビデオモニタリングを設定する(→ 93ページ)

⚠注意 パワーマネージメントを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

メニューを表示させるには…

パワーマネージメントは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、MS-DOSのプロンプト(C*>)が表示されている状態で Fn－Esc キーを同時に押します。
Windowsが起動している状態からは、パワーマネージメントの設定は行なえません。必ずWindowsを終了させてからこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は Alt を押してから ◀▶ キーでメインメニューを選び、▼ キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

〈項目の選択・設定の方法は〉

〈画面の説明は例です〉

メインメニューを選択するには	Alt キーを押してから、▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
サブメニューを選択するには	▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
項目を移動するには	Tab キーを押します。
メニュー項目や設定を変更するには	↵キーを押します。
設定を変更せずに元に戻るときは	Esc キーを押します。
サブメニューなどで設定・機能を設定するには	␣キーでチェックマーク(✓)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
項目ごとで有効・無効を設定するには	▲▼キーで移動し、␣キーでマーク(●)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
機能を使用しない設定にするには	【Always On】【Disabled】【None】を選択します。
終了するには	メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、Esc キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

〈設定を変更して終了させるときは〉

【Save and Exit】を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度↵キーを押すと、変更された設定がメモリーに記憶されてパワーマネージメントが終了します。Esc キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK> to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the BIOS
```

〈設定を無効にして終了させるときは〉

【Exit(No Save)】を選択して↵を押し、もう一度↵を押すと変更された設定が記憶されずにパワーマネージメントを終了します。

各種の設定を行なう

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

パワーセービング機能の設定

● **パワーセービング機能を使うかどうか選択する**

【Power】-【Enable Power Saving】
パワーセーブ機能の有効/無効を設定します。

【Power】-【Battery Only】
バッテリパックを使用しているときのみパワーセーブ機能が有効になります。

● **クロックスピードを落とす**

【Power】-【Customize】-【CPU Timeout】　▲▼キーで値を変更
システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。時間は4秒から16秒の間で設定します。キーボードを押したりグライドポイントを操作するとクロックは元の速度に復帰します。

● **ディスプレイ表示を消す**

【Power】-【Customize】-【Video Timeout】
一定時間キーボードからの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD・CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にクロックスピードを落とす設定を行なっていると稼動状態に時間が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このようなときは、常時Always Onまたは(Disable)に設定してください。

● **ハードディスクの電源をOFFにする**

【Power】-【Customize】-【Disk Timeout】

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電源をOFFにする機能です。このときハードディスクの電源は切れますが、システムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

● **グローバルスタンバイにする**

【Power】-【Customize】-【Global Timeout】

システムが一定時間稼働していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の電源をOFFにします。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から16分の間で設定します。キーボードを押したりスティックポインタを操作するとグローバルスタンバイは解除されます。

● **パワーセービングモードを設定する**

【Power】-【Low Power Saving】

【Power】-【Medium Power Saving】

【Power】-【High Power Saving】

「クロックスピード」「ディスプレイ表示」「ハードディスクの電源」の3つをまとめて設定することができます。

それぞれのモードの時間設定は次のとおりです。

モード	クロック	ディスプレイ	ディスク	グローバル
Low Power Saving	16分	16分	16分	16分
Medium Power Saving	8秒	4分	4分	4分
High Power Saving	4秒	1分	1分	1分

Note クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算が行なうようなプログラムを動かしている場合にグローバルスタンバイの設定を行なっていると、待機状態に判定が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、解除(Always On)または(Disable)に設定してください。

Note ネットワークを使っている場合

【Power】の設定項目はすべて「Always On」に設定しておくことを推奨します。

サスペンド・レジューム機能の設定

● サスペンド・レジューム機能を使うかどうか選択する

【Power】-【Suspend Switch】

電源スイッチを押したときの動作を設定します。電源をON/OFFするか、サスペンド・レジュームさせるかのどちらかを選択します。

電源ON/OFFが「チェックマーク無し」、レジュームが「チェックマーク有り」です。

● サスペンド・レジュームさせるまでの時間を設定する

【Power】-【Suspend Controls】-【Set Alarm Resume】

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。アラームレジュームを行なうように設定するとアラーム時刻設定を行なうための表示が出ますので、希望の時刻を入力してください。

● オートサスペンド

【Power】-【Suspend Controls】-【Suspend Timeout】

[ ]キーを押して[▲][▼]キーで値を選択

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から60分の間で設定します。グローバルスタンバイよりも消費電力は少なくなります。任意のキーを押すなどの操作を行なうとサスペンド状態から復帰しますが、レジュームには数秒かかります。

Word サスペンド・レジューム

アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもファイルを読み込む必要がないので便利ですが、レジューム状態では、少量の電力が消費されていますので、バッテリ駆動でいるときに長時間この状態のままにしておくことは推奨できません。この機能は、パワーマネージメントで有効か無効かを設定できます。

● カバーを閉じたときの動作を設定する

【Power】-【Cover Switch】

LCDカバーを閉じたときに、サスペンド状態に入るか、その未来動作を動作するかを選択できます。

⚠注意 LCDカバーを閉じた状態で使用するときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところでご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合、過熱保護装置が機能し、システムの動作が遅くなります。この場合、電源をOFFにして温度が低下するまで使用しないでください。また、LCDカバーを閉じたまま使用した後、温度が下がらないうちにLCDカバーを開けて使用するとLCD上にムラが現れる場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、ムラは無くなります。

● ビデオモニタリングを設定する

【Power】-【Customize】-【Monitor Video Activity】

CPU Idol、GlobalStandby、AutoSuspendといったパワーセーブ機能を使用しているとき、アプリケーションプログラムによっては、この機能を設定している方が効果的にパワーセーブできる場合があります。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト使用値	説明
Power	Enable Power Saving	Enable	パワーセーブを行なう
	Battery Only	Disabled	
	Low Power Saving	Disable	
	Medium Power Saving	Disable	
	High Power Saving	Enable	
	Customize	No effect	デフォルトは変わりません
	Suspend Switch	Disable	サスペンドスイッチとしてではなく電源ON/OFFとして機能
	Suspend Controls	–	Suspend Timeout:Never
	:	–	Alarm Resume:Disabled
	:	–	時計動作レジューム(禁止)
	Cover Switch	Suspend	サスペンド動作なう

3 画面の解像度を変える

本製品には、高解像度TFTカラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windowsでは最高800×600ドット・65,536色で表示することができます。他の解像度・色数・文字サイズで表示させるときは、ディスプレイドライバを変更します。

出荷状態の設定

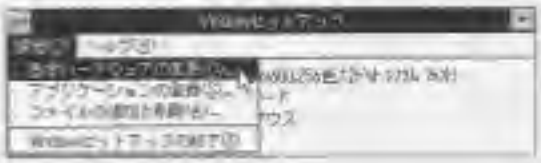
製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	本体LCD表示のみ
解像度	800×600ドット
色数	65,536色
文字サイズ	16ドット

ディスプレイドライバを変える

1 Windowsを起動して[メイン]グループにある[Windowsセットアップ]アイコンをダブルクリックします。

2 [基本ハードウェアの変更]を選択します。



Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、[Fn]+[F1]を押すとCRT→LCD→同時表示の順で切り替わります。
常時一定のタイプを選択する場合は、システムコンフィグレーションで行います。
(→93ページ)

なお、同時表示の場合はLCD画面の動きがCRTの動き通常に連動されるため、画面の表示品質が低下する場合があります。

3 「ディスプレイ」の右横の[▼]にポインタを合わせてクリックすると、表示モードが選択できるようになります。以下のディスプレイドライバが選択できます。

＊再起動を行う必要があります。

● **640×480ドット**

WinBook-Quattro 640×480 16色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 16色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 256色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 256色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 32K色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 32K色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 64K色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 640×480 64K色 16ドットシステムフォント

● **800×600ドット**

WinBook-Quattro 800×600 16色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 16色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 16色 20ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 256色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 256色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 256色 20ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 32K色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 32K色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 32K色 20ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 64K色 12ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 64K色 16ドットシステムフォント
WinBook-Quattro 800×600 64K色 20ドットシステムフォント
出荷設定では64K色の16ドットシステム設定が選択されています。

Note MS-DOS画面では・・・

MS-DOSの画面では、640×480ドットでの画面で表示を行います。このためLCD上で画面の中央部に表示され、回りには一部表示されない部分が出ます。

Note 仮想表示モードとは?

1024×768の表示画面の仮想ディスプレイがあるとして動作をします。画面の表示は800×600ドットになっていますが、見えない部分が表示されない部分は、カーソルを移動させると、自動的に画面がスクロールして見えるようになります。

● 1024×768ドット(CRT表示のみ)

WinBook-Quattro 1024×768,16色,12ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,256色,12ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,16色,16ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,256色,16ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,16色,20ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,256色,20ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,16色,24ドット システムフォント
WinBook-Quattro 1024×768,256色,24ドット システムフォント

この解像度での表示はCRTのみでの表示を選択しているときにのみ有効です。LCDのみ、LCD/CRT同時表示を選択しているときには仮想表示モードが選択されます。

4 表示されているディスプレイドライバに間違いがなければ[OK]をクリックします。

5 ドライバをそのまま使うか、上書きするかを聞いてきますので、適切なものを選択をクリックします。

Note 外部ディスプレイに表示させるときは

Windowsを一旦終了させ電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコントロールパネルでディスプレイ表示の変更を行なってからWindowsを起動します(→93ページ)。

6 Windowsを再起動してもいいかどうか聞いてきますので、[Windowsを再起動]をクリックします。外部ディスプレイに表示させるときは[終了]をクリックしてプログラムマネージャからWindowsを終了させます。

7 選択した表示モードでWindowsが起動します。

ディスプレイと解像度について

外部ディスプレイは、選択された解像度の水平周波数に対応しているものをお使いください。

解像度	水平周波数	使用可能ディスプレイ
640×480	31.5/35.5KHz	VGAモニタ
800×600	37.5KHz	ノンインターレース表示 マルチ周波数CRT
1024×768	48.5KHz	ノンインターレース表示 マルチ周波数CRT

Note スタンダードモードで使うときは

本製品ではWIN/Sコマンドで起動するWindowsのスタンダードモードはサポートしていません。このモードで動かさせる必要がある場合にはVGAディスプレイドライバか800×600SVGAドライバを選択してください。

4 CONFIG.SYSの設定を変える

ご利用になる環境にあわせてCONFIG.SYS」の設定を変更してメモリの消費を抑えることにより快適な動作環境を得ることができます。なお、「CONFIG.SYS」で使われているコマンドについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

ドライバを有効／無効にする

「CONFIG.SYS」の書き換えは、Windowsの[アクセサリ]グループにあるメモ帳か、DOSディレクトリの中のMS-DOS用エディタ「EDIT.EXE」などをお使いください。

EMSメモリを使う場合

UM EMSメモリを使用するDOS/Vアプリケーションのために64Kバイトの EMSページフレームをD8000HからE7FFFHまで割り当てることができます。次のように「NOEMS」を「RAM」に変更してください。

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE NOEMS X=D000-D7FF
                          ▼
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM X=D000-D7FF
```

DOSアプリケーションでかな漢字変換を使う場合

DOSアプリケーションでかな漢字変換を使う場合は、MS-DOS用のMSIMEかな漢字変換のデバイスドライバを組み込む必要があります。以下の2行の行頭の「REM」を削除してください。

```
 ┌─加える
 ↓
REM DEVICE=C:¥DOS¥MSIMER.SYS /A1
REM DEVICE=C:¥DOS¥MSIMR.SYS /DC:¥DOS¥MSIMER.DIC /
DC:¥DOS¥MSIME.DIC /C1 /N /A1
```

PCカードを使用しない場合

PCカードを使用しない場合は、その関連ドライバをロードしないようにすることができ、その分メモリが節約できます。以下に示す各行の行頭にREMを追加してください。

```
REM DEVICE=C:¥CARDWIX¥SSCIRRUS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIX¥CS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIX¥CSALLOC.EXE C:¥CARDWIX¥CSALLOC.INI
REM DEVICE=C:¥CARDWIX¥CARDID.EXE
```

ESC/Pプリンタを DOSで使用しない場合

ESC/PプリンタをMS-DOS上で利用せず、Windows上でのみ使用する場合はプリンタ用のドライバは不要です。行頭にREMを追加してください。

```
REM DEVICEHIGH /L:1,6784 =C:¥DOS¥JPRINTER.SYS
```

CD-ROM・グライドポイントのドライバについては、README をお読みください。

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1. トラブルの原因と対処方法 102

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(→ 12ページ)

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばACアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。
ハングアップした状態のときは電源に問題があります。	バッテリパックを取り外してACアダプタのみでもう一度電源スイッチをONにしてください。
メモリテストが正常に行なわれるのにMS-DOSが起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
輝度が正しく調整されていない。	輝度調整ノブで見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブにシステムが入っていない（Non-System Disk or Disk Error と表示される）	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。
システムディスクが挿入されていない。	システムディスクを挿入してください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。（→41ページ）
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。1.2MBフォーマットされたフロッピーディスクを読み書きする場合は「1024FD.EXE」を実行してください。（→62ページ）
ドライブ指定が違っている。	ドライブ指定を正しく指定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●CD-ROMドライブが認識されない

考えられる原因	対処方法
CD-ROM用デバイスドライバを組み込んでいない。	CD-ROM用のASPIドライバとフロッピーディスクドライブなどと同じように1つのドライブとして認識させるためのユーティリティである「MSCDEX.EXE」を起動時に組み込む必要があります。組み込まれていないときは、CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATを書き換えて組み込まれるようにしてください。なお、出荷時は組み込まれるように設定されています。（→99ページ）
「MSCDEX.EXE」の設定が間違っている。	「MSCDEX.EXE」のオプション（ボリューム名など）が正しく設定されていないと認識されません。AUTOEXEC.BATの「MSCDEX.EXE」の起動コマンドの部分を確認してください。

●スーパーVGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジュームパワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使いたくないときは、パワーマネージメントの設定を変更してください。(→88ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
外部マウスとグライドポインタを同時に使用している。	専用キーボード・マウス接続アダプタをお買い求めのうえ使用してください。また、このアダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

●カーソルが動かす画面が移動する

考えられる原因	対処方法
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、ひらがな/カタカナキーなどと間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 50ページ)

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 31ページ)

●充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対処方法
バッテリ端子の接触不良。	バッテリを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
パワーマネージメントメニューの設定が正しくない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 88ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 24ページ)

⚠注意 ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。

MEMO

Appendix

バックアップディスクの作成と再インストールの方法や、本ユーザーズガイドの索引と製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

1.バックアップディスクを作成する 108
2.ソフトやドライバの再インストール 110
3.索引 117
4.製品の仕様 122

1 バックアップディスクを作成する

ここでは、バックアップディスクを作成する方法について説明します。

バックアップディスク作成の準備

本製品に付属している、MS-DOSやWindows、MS Works、および、各種のユーティリティやドライバは内蔵ハードディスクドライブにインストールされています。
万が一何らかのトラブルや故障が発生して、これらのプログラムを再インストールする必要が起きたときのために、フロッピーディスクにバックアップをとっておくことをお勧めします。また、Windowsで使用するプリンタを設定するときにもバックアップされたディスクが必要になります。

バックアップディスクの作成には、2HDタイプのフロッピーディスクが必要です。バックアップ作業を始める前に用意しておいてください。(フォーマットされていなくてもかまいません)
なお、バックアップしたディスクには、本製品に付属のバックアップディスクラベルを貼ってください。

バックアップディスクを1組作成すると、ハードディスクドライブの中にあるバックアップ用に用意されている領域が削除されます。
このため、バックアップディスクは1組しか作成できません。ご注意ください。

ハードディスクドライブの中にあるバックアップ用に用意されている領域が削除されます。

⚠注意 お客様が作成された、データやプログラムのバックアップはできません。MSバックアップや市販のバックアップソフトをご利用ください。

Note 必要なディスクの枚数は?

すべてのアプリケーションをバックアップするには27枚のフロッピーディスクが必要です。どのアプリケーションをバックアップするかは選択できますが、すべてのアプリケーションをバックアップしておくことをお勧めします。

MS-DOS 5.0/V ディスク	6枚
MS-Windows 3.1 ディスク	12枚
MS Works ディスク	4枚
リファレンスディスク	1枚
ディスプレイドライバディスク	1枚
オーディオドライバディスク	2枚
Card Wizardディスク	1枚

バックアップディスク作成の手順

本製品には、簡単な操作でバックアップディスクを作成することのできるバックアッププログラム(STBACKUP.EXE)が付属しています。お買い上げ後、最初に電源をONにしたときは、自動的にこのプログラムが実行されます。このプログラムは日本語モードでのみ動作します。英語モードになっている場合は、JP↵と入力して日本語モードに変更してから実行してください。

1 MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている画面で、STBACKUPと入力し、↵キーを押します。

```
C:¥>STBACKUP↵
```

2 バックアップについての説明が表示されます。説明をお読みになったら何かキーを押してください。

3 バックアップをとりたいアプリケーションのグループをファンクションキーから選択します。同時に複数を選択することはできません。

4 画面のメッセージにしたがって、用意しておいたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし↵キーを押します。

5 2枚以上のディスクが必要なときは、メッセージにしたがって入れ替えます。

6 ドライブから取り出したディスクには、付属のバックアップディスク用のラベルを1から順に貼ります。続けて他のアプリケーションのバックアップを行なう場合は、手順3以降を繰り返します。

Note 起動時のメッセージをなくすには

「ようこそ」のメッセージとバックアップディスク作成メニューを表示させない、ようにするには、AUTOEXEC.BATの中の最下行の「Start」の行頭に「REM」を付けます。

```
REM start
```

例える

Note バックアップディスクの購入

バックアップディスクは購入することもできます。購入方法については各製品毎の取扱説明書またはテクニカルサポートセンターまでお問い合せください。

2 ソフトやドライバの再インストール

バックアップしたシステムやソフトウェア、アプリケーション、デバイスドライバなどを内蔵ハードディスクドライブに再インストールする方法について説明します。

Card Wizardの再インストール方法は、README テキストに書かれています。[System Soft Tools グループ]にある[Card Wizard Read Me]アイコンをダブルクリックしてお読みください。

MS-DOS 6.2/Vの再インストール

●必要なディスク　MS-DOS 6.2/Vセットアップディスク 8枚
リファレンスディスク 1枚

1 MS-DOS セットアップディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Delete キーを同時に押してシステムを再起動します。

3 このあとは、表示されるメッセージにしたがって操作を行ないます。

4 MS-DOS 6.2/V のセットアップ作業が終わります。

5 リファレンスディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

6 COPY コマンドで、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」を C ドライブのルートディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥AUTOEXEC.BAT C:¥↵
C:¥>COPY A:¥CONFIG.SYS C:¥↵
```

「XXXXX(を上書きしますか?」と表示されたら y を入力して ↵ キーを押します。

7 リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Delete キーを同時に押してシステムを再起動します。

Note システムファイルについて

リファレンスディスクに入っている「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」は、本製品の使用に最適な環境に設定されています。

Note セットアップの詳しい説明は

MS-DOSセットアップの詳しい説明をお知りになりたい方は、別売のMS-DOS 6.2/Vセットアップガイドをご参照ください。
入手方法については、販売店もしくはソーテックテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

MS Windows 3.1の再インストール

● **必要なディスク**　MS Windows 3.1セットアップディスク 12枚

この作業は、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態から行います。
再インストール方法の詳しい説明は、付属の「Microsoft Windows & MS-DOSユーザーズガイド」の「Windowsセットアップと Windowsの再インストール」の項目に記載されていますのであわせてお読みください。

1 MS Windows 3.1 セットアップディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 A:¥SETUP と入力して ↵ キーを押します。

```
C:¥>A:¥SETUP↵
```

3 このあとは、表示されるメッセージにしたがって操作を行ないます。

本製品は、コンピュータの性能を落とさず消費電力を抑えるために取り決められた規格であるAPM(アドバンスト パワーマネージメント)をサポートしています。インストール方法の選択では「カスタムセットアップでインストールする」を選択し、システム情報の「コンピュータ」の項目で「MS-DOS with APM」を選択してください。アイドル時の消費電力を大幅に抑えることができます。(出荷時インストール済みのWindowsはこの設定になっています。

Windowsを最適な状態で動作させるためには、ディスプレイドライバ(→ 112ページ)とオーディオドライバ(→ 114ページ)の再インストールが必要です。
また、お使いのプリンタ専用のドライバが必要な場合があります。

Note　プリンタドライバについて

プリンタドライバは、Windowsで印刷を行う場合には必ず必要です。Windowsには、主要メーカーのプリンタドライバがすでに収録されており、(コントロールパネル)から必要なものを選択することで組み込むことができます。このとき、セットアップディスクが必要です。収録されていないプリンタをお使いのときは、プリンタに付属するドライバディスクを使って組み込みます。

ディスプレイドライバの再インストール

●必要なディスク　ディスプレイドライバディスク 1枚

ディスプレイドライバの再インストールは、Windows上から行なう方法とMS-DOS上から行なう方法の2通りあります。
何らかの理由により、WinBook Quattro用のドライバ以外のものがインストールされたり、WinBook Quattro用のドライバファイルが壊れた場合はWindowsが起動しなくなることがあります。このような場合は、MS-DOS上から再インストールを行ないます。ここでは、この方法について説明します。Windows上から行なうときは、95ページ「ディスプレイドライバを変える」をお読みください。

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

1 MS-DOSのプロンプト（C:¥>）が表示されている状態で、C:¥WINDOWS¥SETUPと入力し、↵キーを押します。

```
C:¥>C:¥WINDOWS¥SETUP↵
```

2 ↑↓キーで【ディスプレイ：】を選択し、↵キーを押します。

3 ↑↓キーで表示される【WinBook Quattro(XXXXXXXXXXX)】のドライバから、表示させたい解像度・色数・文字サイズのドライバを選択して、↵キーを押します。
出荷時の設定は、【WinBook Quattro 800×600 64K色 16ドットフォント】になっています。（→96ページ）

もし希望のドライバが見つからないときは、ディスプレイドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、▲▼キーで【その他（ハードウェアメーカーが提供するディスクが必要）】を選びます。

4 WINと入力して↵キーを押すと、選択されたディスプレイドライバでWindowsが起動します。

Note　再インストールの詳しい説明は

再インストール方法の詳しい説明は、付属のMicrosoft Windows 5.MS-DOSユーザーズガイドの「Windowsの設定とセットアップの項目」に記載されていますのであわせてお読みください。

Note　Windows上での再インストールは

［メイン］グループにあるWindowsセットアップアイコンをダブルクリックします。
このあと、メニューバー【設定】【基本ハードウェアの変更】を選択して希望のディスプレイドライバをインストールします。（→95ページ）

MS Worksの再インストール

● **必要なディスク**　MS Worksディスク 4枚

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

再インストール方法の詳しい説明は、付属の「MS Works ユーザーズガイド」の「Worksのセットアップ」の項目をお読みください。

時刻補正ドライバの再インストール

● **必要なディスク**　リファレンスディスク 1枚

時刻補正ドライバ(PMEXT.SYS)は、サスペンドレジュームを行ったとき時に発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバで、常に起動時に実行されます。
リファレンスディスクに入っている「PMEXT.SYS」をハードディスク上の「UTIL」ディレクトリにコピーして、「CONFIG.SYS」に登録します。

この作業は、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態でおこないます。

1 リファレンスディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 ハードディスク上(Cドライブ)に、「UTIL」ディレクトリが存在しない場合には、コピーの前にディレクトリを作成しておきます。

```
MD C:¥UTIL↵
```

3 COPYコマンドで、「PMEXT.SYS」をCドライブの「UTIL」ディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥UTIL¥PMEXT.SYS C:¥UTIL↵
```

4 COPYコマンドで、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」をCドライブのルートディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥AUTOEXEC.BAT C:¥↵
C:¥>COPY A:¥CONFIG.SYS C:¥↵
```

「XXXXXXを上書きしますか?」と表示されたら(Y)を入力して↵キーを押します。

5 リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Delキーを同時に押してシステムを再起動します。

オーディオアプリケーションの再インストール

● **必要なディスク**　オーディオドライバディスク 2枚

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

1 オーディオドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 プログラムマネージャのメニューバーから【アイコン】-【ファイル名を指定して実行】を選択します。

3 A:¥SETUP と入力して [OK] ボタンをクリックします。

4 しばらくすると"オーディオアプリケーションセットアップウィンドウが表示されますので、[継続] ボタンをクリックします。

5 ドライバのインストールか、ソフトのインストールかを指定します。
再インストールが必要なほうのボタンをクリックします。

ドライバインストール

1 インストール方法を指定します。
ここでは、【自動でボードの構成】をクリックします。

【自分でボードの構成】をクリックすると、I/Oアドレス、インタラプト、DMAチャネルの設定画面が表示されますが、本システムでは設定を変更することはできません。間違ってこの画面が表示されてしまったら[Cancel]ボタンをクリックしてください。

2 ドライバのインストールだけを行なう場合は、【Windowsの再起動】をクリックして再起動させます。このあと、ソフトウェアのインストールも行なうときは【ソフトウェアインストール】をクリックします。

ソフトウェアインストール

1 オーディオアプリケーションのインストール先を指定します。
本システムでは、「C:¥PCAUDIO」ディレクトリにインストールしますので、そのまま [OK] ボタンをクリックします。

2 すでにそのハードディスク、ディレクトリ上にオーディオアプリケーションが存在する場合はディレクトリを上書きするかどうか尋ねてきます。
ここでは、[はい] ボタンをクリックします。

3 アプリケーションを全部インストールするか、または、その一部だけをインストールするのかを指定します。全部インストールするには3871Kバイトの空きが必要です。

4 【部分的にインストール】をクリックすると、アプリケーション選択の画面が表示されます。インストールしたいアプリケーションをチェックボックスをクリックして選択します。

5 選択が終わったら［インストール］をクリックします。

6 オーディオアプリケーションのファイルがコピーされます。

7 次の画面が表示されたら「オーディオドライバディスク2」に入れ換えます。

8 ［オーディオアプリケーション］グループが作成され、アイコンが登録されます。

9 これでインストール作業は終わりです。
ドライバのインストールを行なったときは、一旦Windowsを再起動させてください。

3 索引

あ

アイコン 56
アルファベット 51

い

イジェクトボタン 41
インサートキー 46
インストール ..... 110～116

う

ウィンドウズ ..... 17-34-54～56

え

絵記号 51
英数キー 47
英数入力 49
エスケープキー 46
エフエムキー 47
エンターキー 46

お

オーディオアプリケーション ..... 54-59-114～116
オートサスペンド 92
オートリピート 85
オルトキー 47
大文字モード 51
音量の調節 33-59

か

カーソルキー 47
カードの抜き差し 65
カードサイズ 64
画像度 95-98
外部オーディオ機器 58
外部RTポート 20-21
外部モニタ 78
外部キーボード 77
外部キーボード・マウスポート 20-21
外部テンキーパッド 77
外部スピーカ 20-21-58
外部マウス 38-77
外部入力端子 58
拡張RAMモジュール 19-66-72
仮想表示モード 96
カタカナキー 47
カタカナ入力 49
カタカナ/ひらがなキー 47
かな記号 51
かな入力 50
カバーの開け閉め 18
カバーを閉じたときの動作 93
カレンダ 83
漢字の入力 50

き

キーボード ..... 18-19-44～51
キーボード動作 85
キーボード・マウス接続アダプタ 77
起動ドライブ 83
起動方法 83
輝度調整 8-19-30
キャッシュメモリ 84
キャップスロックキー 47

く

クリック 35-55
グライドポイント 35-36
グローバルスタンバイ 91
クロックスピード 90-91

こ

小文字モード 51
コントロールキー 47

さ

最大化 58

再インストール……110～116
縮小化……56
サウンド機能……57～60・86
サスペンド・レジューム……26・32・92
サポート……12

し

時刻……31
時刻補正ドライバ……113
システムI/Oマップ……124
システムコンフィグレーション……45・80～87
システム仕様……122
システムファンクションキー……45
システムメモリマップ……123
シフトキー……47
シリアルポート……20・21
充電……24
充電LED……18・19・23・24・25
終了……82・89
初期化……70

す

数字……51
スクロールロックキー……45
スタンダードモード……98
ステータスLED……18・19・23
スピーカ……33・45・57・86
スペースキー……47

せ

制御キー……44
全角入力……49

そ

ソフトウェア……17

た

タブキー……47

て

ディスプレイ表示……90
ディスプレイドライバ……95・112
ディスプレイモード……83
テックサポートFAXシート……16
デフォルト……80・94
テレートキー……46
電源……24・28
電源LED……18・19・23・25・28
電源スイッチ……18・19・28
テンキー……48
テンキーパッド……77

と

動作モード……85
時計……31
ドライブユニット……18・19・37～39
ドラッグ……55

な

内蔵スピーカ……20・21・57
内蔵マイク……20・21・57
内蔵FAXモデム……70・71
ナンバーロック……85
ナンバーロックキー……48

に

入力モード……49

は

バージョン情報……86
ハードディスクドライブ……18・74・75・84・91
ハードディスクを取り外す……74
ハードディスクを取り付ける……75
パスワード……84
バックアップ……30・108
バックアップディスク……30・108・109
バックスペースキー……46
バッテリ……25・93
バッテリ装着エリア……22
バッテリパック……18・26・27
バッテリパック取り出しボタン……22
パワーセーブ・ビング……31・90

Appendix

ハングアップ 29
パワーセーブモード 91
パワーマネジメント 43-88~94
半角入力 49
半角/全角キー 47

ひ

日付 31
ひらがなキー 47
ひらがな入力 49
ビデオモニタリング 93

ふ

ファンクションキー 46
フォーマット 42
プリンタドライバ 111
プリンタポート 20-21-85
プリントスクリーンキー 46
フロッピーディスク 18-19-39-40~42
フロッピーディスクドライブ 39-40~42

へ

ヘルプ 50
変換キー 47

ほ

ポーズ・ブレークキー 46
ポインタ 35-54

ま

マイク 58
マイク入力 20-21-58
マウス 35~37-77

み

ミキシング 68

む

無変換キー 47

め

メニュー 81-86-88

も

文字入力キー 50
モデムカード 67

ら

ライトプロテクトノッチ 38
ライン入力 20-21

り

リードミーファイル 30
リストア 86
リセット 29
リセットスイッチ 18-19-29
リチウム電池 25

れ

レジューム 32

ろ

ローマ字入力 50
ロック状態 44

A

ACアダプタ 16-24
ACコード 16-24
Alarm Resume 82
Altキー 47
Always On 82-89
APM 111
Auto-D 94

B

Back Spaceキー 46
Battery Only 90
Boot Device 93

C

CAPSロック 23
Card Wizard 17-69
CARDINFO.EXE 66
CD-ROMドライブ 37~39-61-62
ColorScheme 81
COM Ports 85
Components 85-88
COMポート 85
COMポート番号 87
CONFIG.SYS 41-99
COM Port A 84
Configure SCU 86
Cover Switch 93
CpLKキー 47
CPU Timeout 90
CPU状態 23
Ctrlキー 47
Customize 90-91-93

D

Date and Time 83
DC入力コネクタ 20-21
Defaults 84
Deleteキー 46
Disable 82-89
Disk Timeout 91
Disks 84

E

Easy Menus 86
Enable Password for Boot-up 84
Enable Password for SCU Changes 84
Enable Power Saving 90
Enterキー 45
ESCキー 45
Exit 82-96-99

F

Fast Boot 83
FAX 70-71
FDDアクセス 23
Fnキー 47
FORMATコマンド 76

G

Gate Point 85
Global Timeout 91

H

Hard Disk 84
HDDアクセス 23
HDDスロット 18-19
High Power Saving 91

I

I/Oアドレス 68
Insertキー 46
IRQ 69

K

Keyboad Repeat 85
Keyboad Numlock 85

L

L1 Cache Enable 84
L2 Cache Enable 84
LANカード 68
LCD/CRT表示 45-78
LCD画面 18-19
LINE IN 20-21-58
Low Battery Suspend 93
Low Power Saving 91
LPT Port 85
LPT Type 85

M

Medium Power Saving 91
Memory 84
MIC IN 20-21-58
Monitor Video Activity 93
MS-DOS 17-110
MS Windows 17-34-54-55-111
MS Works 17-54-113

N

None ..... 82·89
NumLkキー 48
NUMロック 23

P

Password 84
Pause Breakキー 46
PCMCIA規格 54
PCカード ..... 54~69
PCカードの抜き差し 65
PCカードスロット ..... 18·19
PMEXT.SYS 113
Power ..... 90~93
PrtScキー 46
PS/2マウス ..... 37·77
PS/2外部キーボード 77

R

RAMモジュール 19
README 30
Restore Settings 86

S

Save and Exit ..... 82·89
Save and Reboot 82
ScrLkキー 48
SCRLKロック 23
Set Alarm Resume 92
Shiftキー 47
Sound Chip 88
SPEAKER ..... 20·21·56·58
Speaker 86
Startup ..... 83·84·86
Suspend Control ..... 92·93
Suspend Switch 93
Suspend Timeout 92

T

Tabキー 47

V

Version Info 86
Video Timeout 90
VideoSelect 83

W

Windows ..... 34·54·55·111

数字

1.2MB 42
1.44MB 42
1024FD.EXE 42
3.5インチフロッピーディスク 40
3モード 42
720KB 42

4 製品の仕様

システム仕様

モデル		J4P90CX
CPU		Pentium 90MHz
システムRAM	標準	8MB 3.3Vタイプ
	最大	40MB(16MBRAMカード3.3Vタイプ2枚追加時)
BIOSROM		128KB フラッシュROM
ビデオメモリ		1MB 32ビット幅ローカルバス・アクセラレータ付き
ハードディスク		810MB脱着式
フロッピーディスク		3.5インチ3モード 1.44MB/1.2MB/720KB脱着式
CD-ROMドライブ		12cm/8cm 4倍速
ビデオ	LCD	800×600ドット TFTカラー64K(65,536)色 0.28ピッチ R3B一組 12.1インチ冷陰極管バックライト ※DOSモード 640×480ドット
	CRT	最大1024×768ドット カラー256色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能 ※DOSモード 640×480ドット
インターフェース		シリアルポート(16550タイプUART) パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート PCMCIA V2.1 ICカードスロット SPEAKER端子 MIC IN端子 LINE IN端子
キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレン型
	キー数	84キー(106キーエミュレーション)
マウス		キーボード組み込み型グライドポイント2ボタン式
サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドFM音源WINDOWS サウンドシステム互換
スピーカ		35mm×2 ステレオ
マイク		モノラルマイク内蔵
機密保護機能		パスワード設定による保護機能
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 (ユーザ選択可能)
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ5年間
電源	ACアダプタ	入力100V~240V 50・60ヘルツ
		出力19V 2.5A
	電池	リチュームイオン電池 14.4V 2500mA
寸法		302(W)×230(D)×49(H)mm
重量		2.9Kg

Appendix

システムメモリマップ

FFFFFFFFH FFE00000H	システムBIOS領域
FFDFFFFFH 01600000H	予約領域
027FFFFFH 00800000H	拡張メモリカード/増設領域
007FFFFFH 00400000H 003FFFFFH 00100000H	標準実装7MB領域
000FFFFFH 000F8000H	システムBIOS
000F7FFFH 000F0000H	PMプログラム領域
000EFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域
000E7FFFH 000E0000H	アッパーメモリ予約エリア
000DFFFFH 000D8000H	アッパーメモリ予約エリア
000D7FFFH 000D0000H	PCMCIA予約エリア
000CFFFFH 000C8000H	PnPBIOS
000C7FFFH 000C0000H	VGA BIOS
000BFFFFH 000A0000H	VGAディスプレイメモリ
000BFFFFH 00000000H	メインメモリ640Kバイト

システムI/Oマップ

03F8H~03FFH	COM1シリアルポート(シリアルポート1)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
03B0H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート(プリンタポート1)
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	PCMCIAのCOM2用として予約
02B0H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0230H~026FH	予約領域
0220H~022FH	サウンドチップ
0200H~021FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック・カレンダ・その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

SOTEC